

第3章 7つの提言

1 提言に向けたポイント

第1章で述べた多摩川の姿や、第2章における多摩川源流の現地調査、及び他河川の文献・現地調査の結果から人と川の距離を近づけるための3つのポイントをあげる。そして、そのポイントに基づき、具体的な7つの提言を述べていきたい。

(1) 市民協働による川づくり

これまで何度も述べてきているが、多摩川は一時の汚れた川から再生のシンボリック的存在に至るまでになっている。流域の人口密度は年々増加傾向にあり、それに伴う河川敷の利用密度も高く、常に、人為的影響を受けている川といえる。

川はすべての人に開放されており、治水上の支障をきたしたり、他人に迷惑をかけたりしない限り、何をしても自由である。しかし、自由であるが故に利用者側には、個々の責任を果たす義務があり、それなりの作法をもって、利用することが重要である。

川をただ利用するだけではなく、守り育てていく対象に転換することで、川は身近な存在となり、川への愛着が生まれると考えられる。そのためにも、市民協働の川の維持・管理に関する取り組みを進めていく必要がある、そのことで、多摩川への意識が高まるのではないだろうか。また、多摩川をよりよい環境に維持することで、モラルの向上や多摩川及び川崎市に対するイメージ向上が図られるものと考えられる。

そこで、以下の2つの提言を述べていきたい。

【提言1】 多摩川の顔づくり ～河川敷における「花づくり推進地区」の設定～

【提言2】 イベントでゴミ拾いをしよう！ ～多摩川におけるゴミ拾いの定着～

(2) 流域を意識した取り組み

川に関する施策を考えるときに、今後積極的に取り入れていきたいのは流域という視点である。慶応大学教授で、NPO法人鶴見川流域ネットワークの代表理事でもある岸由二氏は、著書のなかで「流域思考」「流域人」という表現をしている。流域を考えることは、自分たちの足もとの地域や、自らの暮らしぶりを考えることにつながり、まちや地球環境のありようを考えることにつながる、という考え方である。これは、細長く伸びる川崎の市域や、「川崎都民」という言葉に象徴されるように、帰属意識が薄いといわれる市民の心をひとつのまとまりとしてつなぐかぎともなり、さらには市域にとらわれずに源流から河口まで、多摩川という一つの軸を中心に広がる流域のまとまりまで広げて考えていくことになる。

この流域という視点は、実は多摩川の現在の姿にも大きく関わっている。多摩川を管理する国土交通省京浜河川事務所へのヒアリングのなかで、なぜ多摩川は都市の中の川にもかかわらず、隅田川や鶴見川下流部に見られるようなカミソリ護岸ではなく、自然の河川敷が比較的よく残っているのかと聞いたところ、次のような答えがあった。多摩川では、ちょうど堤防を作っていく時期に、環境に対する意識の高い市民の働きかけがあったこと、また、多摩川流域の上流部には、市街化されておらず保水力の高い山間部が多く残されており、それが河川敷をな

るべくそのまま残していくことにつながったというのである。なお、鶴見川では国と横浜市、川崎市、町田市が関わり流域水マスタープランが策定され、施策の連携が進んでいる先進地域となっているが、これには流域の約85%が市街化されているがゆえに起きてきた河川の氾濫などの課題に対応するために、鶴見川流域全体として取り組まざるを得なかったという事情もあるそうである。

このように、川を考えるときには、その「流域」を切り離して考えることは出来ない。ここでは、まず市域をつなぐかぎとしての流域と、次にそこから視点を広げた源流から河口までの広い流域との2つに分けて、提言を述べていきたい。

【提言3】 流域マップで市域をつなぐ ～「流域」意識の共有化～

【提言4】 源流に行こう！ ～源流と河口というほかにない特別な関係～

(3) 拠点を活かした取り組み

鬼怒川・小貝川には、堤内外地にかかわらず多くの拠点が存在している。調査でも、その拠点をうまく活用することで、地域の新たな魅力づくりや川を介した交流が図られていることが分かった。

市域30kmに沿って流れる多摩川には、鬼怒川・小貝川との治水の考え方の違いや、都市河川であることなどから、拠点となりえる施設は少ない。しかし、制限がある中でも、上手く活用し、また、さらに魅力を深めることによって、多摩川の拠点となりえる場所はある。

ここでは、幸区船着場、等々力、ニヶ領せせらぎ館の3つの拠点を選定し、その場所のもつ条件を活かした提言を述べていきたい。

【提言5】 幸区船着場 ～賑わいの創出～

【提言6】 等々力 ～市民ミュージアムを中心とした試み「多摩川とともに」～

【提言7】 ニヶ領せせらぎ館 ～市民協働による環境学習メニュー開発～

2 市民協働による川づくり

【提言1】 多摩川の顔づくり ～河川敷における「花づくり推進地区」の設定～

(1) 現状

多摩川は、東京から川崎に入る玄関口として、毎日、通勤・通学者など多くの人々が横架している。橋の上から眺める多摩川の広大な自然空間は、人々にとって、安らぎや癒しを与えてくれる貴重な存在であるだけでなく、川崎市における「都市の顔」「イメージの象徴」といえる。しかし、河川敷に暮らすホームレスの問題（図3-2）や利用者によるゴミの放置問題（図3-3）など、橋から見える多摩川の景観は、川崎市にとって負のイメージとなっていないだろうか。地域資源の骨格ともいえる多摩川を見直し、新たな魅力をつくりだし、効果的に発信することができれば、多摩川及び川崎市に対するイメージ向上が図れ、それこそがシティセールスにつながるものと考えます。

川崎市では、残された貴重な自然を守り、緑豊かなまちづくりを推進するため、緑化の普及や啓発、緑のボランティアの育成、花とかわさき緑のパートナーシップ事業など、緑の保全及び緑化に努めている。また、花と緑の豊かなまちづくりを進めている団体を募集し（緑の活動団体）、助成を行っている（112ページ～、資料編参照）。

2001（平成13）年度には、新世紀記念事業として、市の表玄関であるJR川崎駅前広場を花と緑で飾って市のイメージアップを図るとともに、駅前環境の美化など快適な環境の創出を図るため、市民ボランティアによる花づくりが展開されている。現在、この事業に参加した市民により「フローラかわさき」（112ページ、資料編 NO. 25参照）が組織され、維持管理や植え替え時のデザインの作成等、緑化活動を実践している（図3-1）。この地区は、市の「緑化推進重点地区」に設定され、市民活動による緑化計画を策定し、緑化の推進を図っている地区である。

また、この他にも、「川崎市シティセールス戦略プラン（2005年3月）」の重点戦略に、「緑の景観づくり推進事業」が位置付けられており、市民や事業者と協働した緑の景観づくりが推進され、都市のイメージの向上が図られている。

上記事業は、対外的なイメージの向上だけでなく、自らの手で新たな魅力を作り出すことで、地域への愛着を生み出しているものといえる。



【図3-1】 花の補付け（川崎駅前広場）

提供：環境局緑政係緑政課

1 緑化推進重点地区とは、改定中の「緑の基本計画」の中で検討されているものであり、「都市の顔」として重点的な緑化を推進することが効果的な地区、緑による良好な住環境の形成を図ることができる地区などである。現在、9地区が候補地と設定され、前述した川崎駅周辺を含む3地区で先行的に事業展開が図られている。9地区とは、川崎駅周辺、塩浜、浜川崎、新川崎、小杉、高津・溝口、鷺沼、登戸、新百合丘地区のこと。

(2) 提言

多摩川の顔づくり ～河川敷における「花づくり推進地区」の設定～

現在、川崎市では、「多摩川プラン」の策定や「緑の基本計画」の改定作業が進められている。「都市の顔」として新たに多摩川河川敷を「花づくり推進地区」に設定し、事業として実を結んでいる「フローラかわさき」にみられるような、市民協働による花づくりを実施することを提案する。「都市の顔」となるべく、地区については、幸区船着場周辺と二子橋周辺を選定する。両地区における現状・課題は次の通りである。

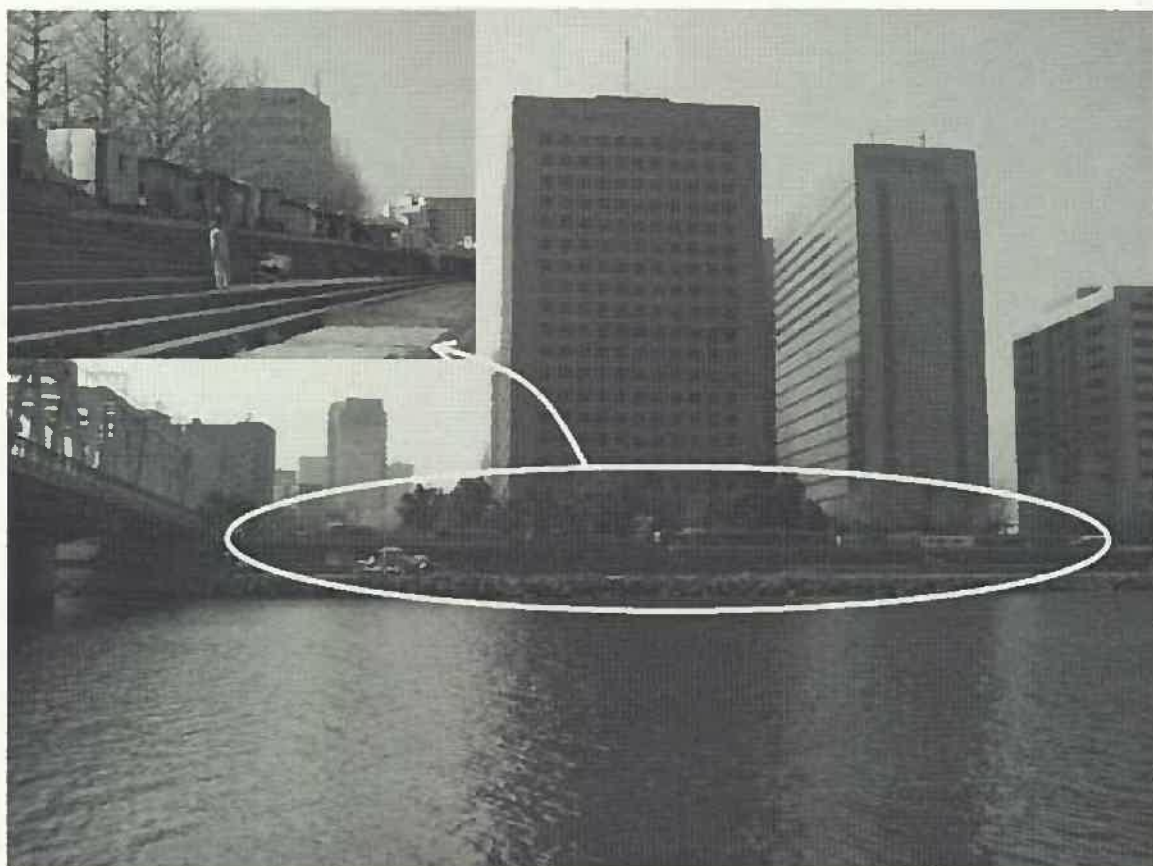
(ア) 幸区船着場周辺

- ・ 1989（平成元）年に整備されたレンガ堤周辺に花壇があるが、その前にホームレス住居が立ち並び（図3-2）、JRの車窓からみえる景観は、川崎＝ブルーシートといえる。
- ・ 船着場背後には、花づくりを実施できるスペースがあり、2005（平成17）年度には、市民協働により、菜の花づくりが実施されている（88ページ、図3-21参照）。
- ・ 市街地と水際線の距離がもっとも近い場所であり、水辺に親しめる拠点として新たな賑わいの創出（オープンカフェや商業施設等）が可能である。（提言5で提案）
- ・ 川崎駅からのアクセスが良いため、花づくりに参加しやすい。
- ・ 川崎駅西口の再開発が進んでおり、魅力的な場所をつくり出すことで、回遊性の向上が期待できる。

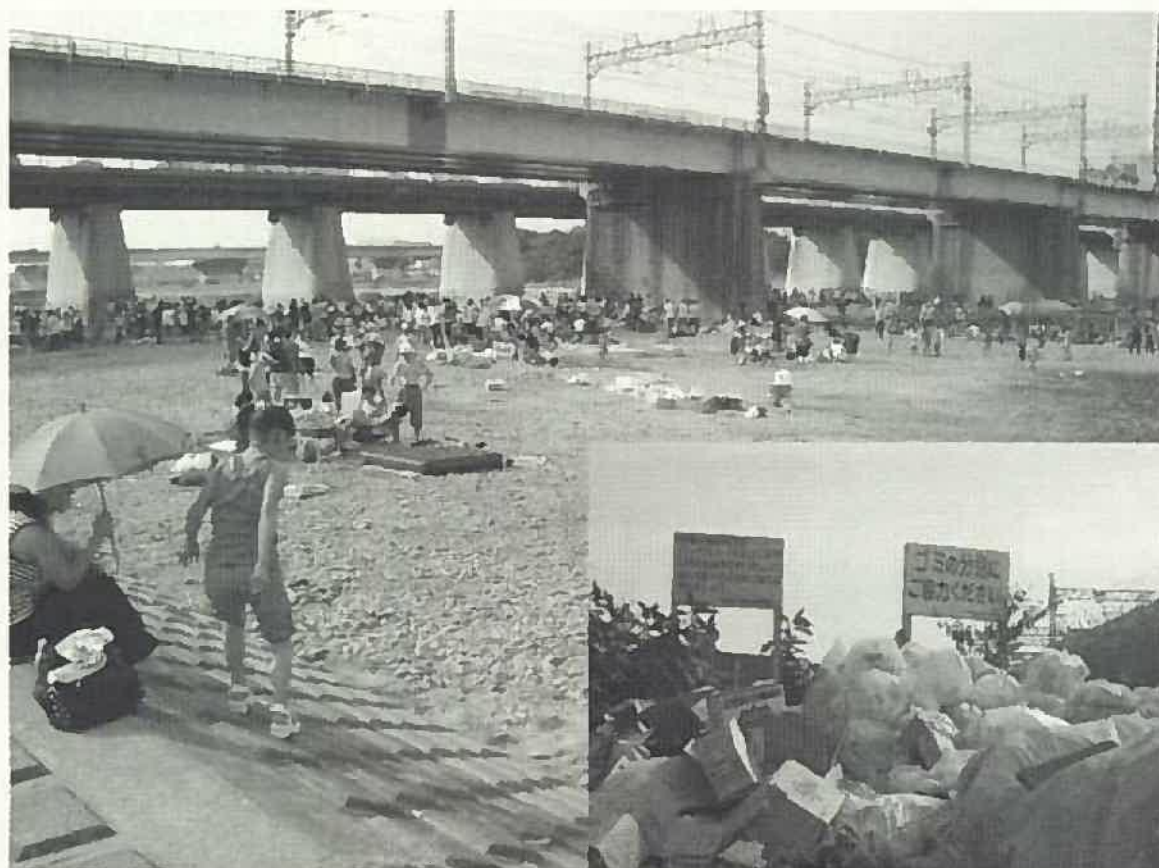
(イ) 二子橋周辺

- ・ 二子新地駅からのアクセスが非常に良く、駐車場もあり、現在、多くの人で賑わっている。花づくりを進めていく上で、参加しやすい場所といえる。
- ・ 田園都市線の車窓から見える範囲にワイルドフラワーがあるが、市民の認知度は低く維持管理費用を考えると、事業効果が低いものと思われる。
- ・ 行楽シーズン時のパーベキューから出るゴミが地域の大きな問題になっているが（図3-3参照）、ボランティアによる清掃活動には限界があり、利用者へのマナー向上（美化意識の向上）が求められている。
- ・ 高津区では、高津区の花「すいせん」を植えるイベントが、多摩川河川敷において実施されており、市民との協働による「花と緑のまちづくり」が、積極的に行われている区である。

このような両地区の課題解決として、「花づくり推進地区」を設定し、市民協働による花づくりを行うことで、対岸や橋から見える新たな多摩川の顔をつくりだすことが出来る。



【図2-2】 JR線からの景観（幸区船着場周辺）



【図2-3】 バーベキュー利用者によるゴミの放置（二子橋周辺）

提供：多摩川施策推進担当

(3) 今後の課題・展開

①人材資源の有効利用

提言で示した、「花づくり推進地区」における花づくりには、市内各地で開催されている育成講座等を受けている、緑化推進リーダー²・かわさきガーデナー³・地域環境リーダー⁴など、花づくりの中心になれる人材資源への積極的・効果的な広報活動（出前トークなど）を行うことが望まれる。地域リーダー、既存の活動団体など多様な参加主体によって、交流が線に、さらに拡大して面となり、新たな地域コミュニティが形成され、地域への誇りや愛着が生まれるものと考えられる。また、今後、2007年問題を迎えるにあたって、地域の活動に積極的に取り組んでいく高齢者の増大も推測されることから、新たな多摩川に関係するリーダーの研修や育成についても検討を行い、積極的に活用していく必要がある。

②ワイルドフラワー事業の見直し

前述したワイルドフラワー事業は、川崎区から多摩区の多摩川河川敷において実施している事業である。当初の思惑とは異なり、雑草の手入れ等、年間約800万円⁵の費用が必要となっている。また、事業開始から10年以上が経過し、荒廃している地区もみられ、市民の認知度も決して高いとはいえず、事業効果を検証する時期にきている。今後、市の財政環境が厳しくなることもふまえ、花づくりを実施していく過程の中で、行政と市民が協力し、コスト削減に向けた事業内容の見直しなど、市民と協働で問題解決を行なうことが可能といえる。

③ホームレスへの支援

川崎市内の多摩川河川敷には、市内の1/3にあたる約300人⁶のホームレスが生活している。第2章-2で述べたように、川崎市ではホームレスの対策が講じられており、河川敷に賑わいを創出するためにも、ホームレスの自立支援に向けた取り組みが必要である。

④自然環境への配慮

多摩川には、河川敷を利用するためのルール⁷が定められており、人々の暮らしと自然の調和を目指したゾーン設定が行なわれている。昨今、外來植物等への危惧が高まっており、多摩川の野生生物の保護も視野に入れた花づくりを進めていくことが望まれる。

そのためにも、市内にある明治大学農学部のような専門家をコーディネータ役に市民との協働を進める必要があると考える。

² 緑化推進リーダーとは、川崎市が主催する育成講座を受講した、地域の緑化活動の中心となる人材のこと。2004（平成16）年度までに約200名が受講している。

³ かわさきガーデナーとは、川崎市が主催する花と緑に関する試験に合格した人材のこと。

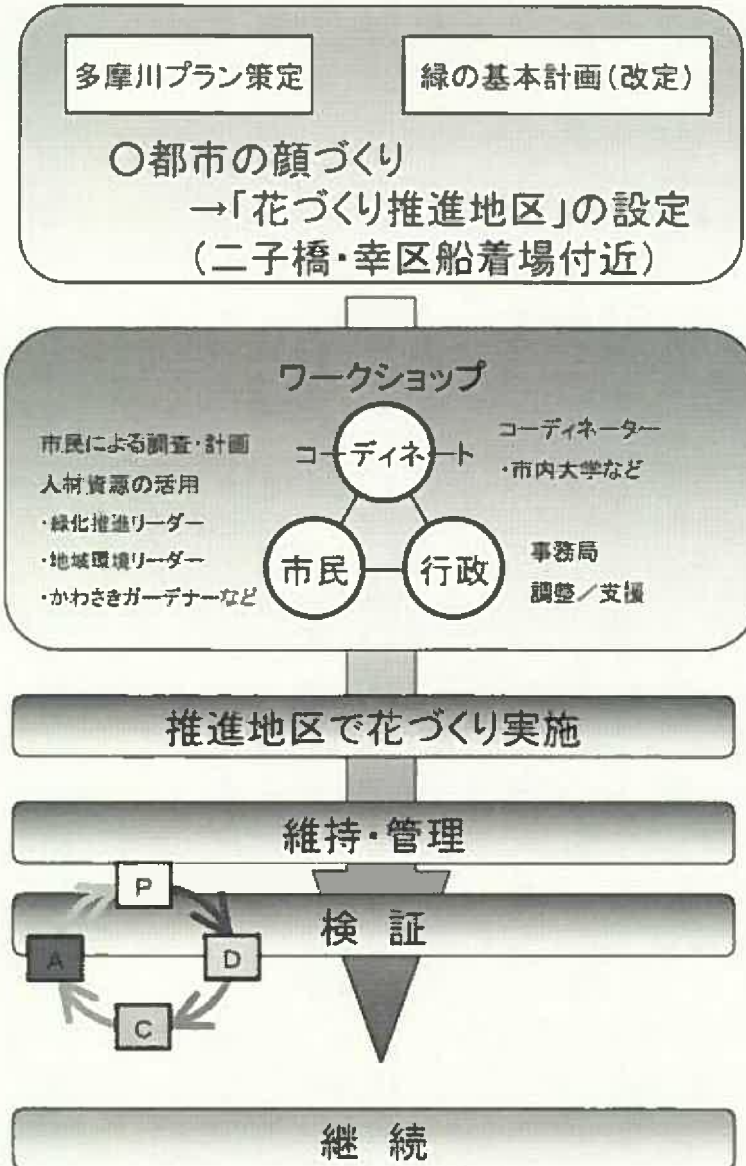
⁴ 地域環境リーダーとは、川崎市が主催する育成講座を受講した、地域や職場で環境学習や環境保全活動を率先して行なう事のできる人材のこと。2004（平成16）年度までに135名が受講している。

⁵ 約800万円とは、2000（平成12）年度から2004（平成16）年度までのワイルドフラワーへの事業費を平均化した金額。

⁶ 約300人とは、2005（平成17）年7月川崎市調べ。

⁷ 河川敷を利用するためのルールとは、流域全体を視野に入れた、多摩川の豊かな自然を保全しつつ、川が人々の多彩な活動の場となるよう計画された多摩川河川環境管理計画のこと。自然系空間と人工系空間の面積比を6：4と定めている。

イメージ図



【図3-4】提言1の実行イメージ

【提言2】 イベントでゴミ拾いをしよう！ ～多摩川におけるゴミ拾いの定着～

(1) 現状

第1章-5で述べたように、多摩川に行ったことのない市民の割合は3割に上り、9年前の調査に比べて約1割増加した。さらに、多摩川の保全に関して重要なこととして、「水質の向上」が64.9%を占めており、多摩川は依然として汚れたイメージが根強く残っていることが明らかになった。

また、利用内容についても、「散歩」が58.1%と突出し、サイクリングやジョギング・マラソンなどが上位を占め、運動場としての利用率が高く、「花火」や「バーベキュー」についても上位となっていることから、多摩川が、休日にイベント的に利用されている姿も浮き彫りになっている。

これまで多摩川は、熱心な市民活動により、一時の汚れた川から再生を遂げ、身近な存在に戻りつつあるといえる。しかし、前述したように、ただ川を運動場やイベント会場として利用することだけが続けていけば、市民の川への関心は薄れ、かつての汚れた多摩川に逆戻りしないだろうか。

今後は、予防保全の考えに基づき、さらなる美しい多摩川を未来に残すため、川を守り育てていく取り組みが必要といえる。

現在、多摩川では、様々な美化活動が実施されており、以下にその一部を記す。

①行政

青少年を中心とした市民参加によるまちづくりの一環として、毎年、6月の第一週の日曜日に、「多摩川美化活動」を展開し、15,300人（2005年度実績）が多摩川の再生に汗を流している。市内町内会と青少年団体、企業等が参加している全市的な取り組みであり、マスコミ等にもとりあげられている。しかし、表3-1の参加人数を見ても、市人口の約1%という結果になっており、増加傾向にあるといえても、まだまだ市民の関心は低いといえる。また、ゴミの量は減っているとはいえ、利用者のモラル向上にむけた取り組みが必要となっている。また、川崎市制記念花火大会翌朝にも、ボランティアによる清掃活動を行っている。

【表3-1】多摩川美化活動実施結果

| 年度 | 2003 | 2004 | 2005 |
|----------|-------------------|------------------|-------------------|
| 参加 人数 | (11.7t) 15,000 | (9.5t) 12,100 | (13.8t) 15,300 |
| 団体 | 129 | 130 | 154 |

()はゴミの量

②市内学校

市内学校でも、総合学習や環境学習の一環として様々な美化活動が実施されている。

活動の一つとして、昨年、東高津中学校では、生徒310名自らが総合的な学習の時間を使って「多摩川クリーン大作戦」を立案し、地域のボランティア団体などが援助しながら、地域への奉仕活動を実施した。

③市民活動団体

とどろき水辺の楽校（106ページ、資料編 NO.9）では、「多摩川クリーン作戦&焼き芋とじゃがバター」と題して、清掃活動に楽しみを加えながら、自分たちの活動場所周辺の清掃を行っ

ている。また、上流部からのゴミが一番集まる河口部で活動している多摩川遊クラブ（107ページ、資料編 NO.23）は、子どもたちが遊べる多摩川をめざして、毎月2回、朝7時より、ほぼ1年を通じて活動している。

④企業

前述の多摩川美化活動に参加している企業や、社会的責任の一環として清掃活動を実施している企業もある。多摩川美化活動と同じ日には、多摩川をきれいにしようと、川崎信用金庫主催による「かわしん稚魚放流大会」が行なわれ、親子連れ約4千人が参加し、鮎やウグイなどの稚魚一万匹をバケツから川に放流している。

(2) 提言

イベントでゴミ拾いをしよう！ ～多摩川におけるゴミ拾いの定着～

全国各地で、イベント参加とあわせたゴミ拾いが実施されている。現在、多摩川では、年間を通じた行政主催の様々なイベントが実施されているが、ゴミ拾いがセットになっているようなイベントは少ないといえる。参加者に対する多摩川のゴミ問題への関心をつくるきっかけになるだけでなく、イベントに関係のない、利用者への啓蒙活動につながるため、イベント参加者による、河川敷のゴミ拾いの定常化を提案する。

また、例えば、「多摩川鮎釣り大会&ゴミ拾い」のような、川の利用者とゴミ拾いを合せた、楽しい新たなイベントを開催することで、天候に左右されることなく、1年間を通じて、何処かで誰かが河川敷のゴミ拾いを行っている状態をつくり出すことが可能になり、現在、ボランティアで活動されている方々とあわせて、市民協働の川の維持・管理が広がるものと考えられる。

さらに、年間を通じた活動やゴミの収集結果を公表することで、今後の指標を明らかにすることができ、モラル向上につながるものと思われる。

(3) 今後の課題・展開

①美化活動団体の情報収集・発信

平成17年度より、多摩川に関する行政側の窓口が統一されたことで、市民団体との連携が図りやすくなったといえる。今後は、「いつ、どこで、どのような」美化活動が行なわれているのか、情報を収集・発信することが、ゴミの少ない多摩川を目指す上でも大切な取り組みと考える。

②アダプトプログラムの検討

アダプトプログラム（63ページ参照）は、全国各地で実施されており、大きな成果が出ている。多摩川においても、効果が期待できる場所については、アダプトプログラムを導入することを検討してみてもどうか。

③流域との交流

多摩川の美化問題は、流域全体の問題であるといえる。例えば、毎年、11月に源流で行なっている多摩川源流クリーン作戦へのボランティア参加なども、魅力ある交流イベントであり、流域の意識を高めることで、美化活動の一助になるものと考えられる。

④環境教育の拡充

利用者のモラルの向上には、地道で継続的な取り組みが必要といえる。できるだけ教育課程の中で、多摩川のもつ水辺環境のすばらしさや大切さ、ゴミに関するマナーを体験的に学ぶ必要がある。学校と行政・市民活動団体が連携して、子どもを対象にした体験啓発活動の拡充に取り組むべきである。

⑤ゴミの撤去

市民活動団体へのヒアリング調査の中でも、ゴミ収集に対する連絡体制や行政間の縦割りに関する指摘があった。拾ったゴミを集積している場所に、さらにゴミが不法投棄される場合があるため、迅速なゴミの撤去に向けた取り組みなどが求められている。

3 流域を意識した取り組み

【提言3】 流域マップで市域をつなぐ ～「流域」意識の共有化～

(1) 現状

①「流域」とまちの姿

多摩区あたりを上空から撮影した航空写真(図3-5)を眺めると、多摩川の水と多摩丘陵の緑の二本の軸が、まちの中を沿う様に伸びているのがはっきりとわかる。「たまのよこやま」として万葉集に歌われた多摩丘陵のなだらかな連なりは、多摩川と並んで川崎のふるさとの情景を形作っている。その多摩丘陵の斜面や崖線には多くの湧水が存在し、水を育む豊かな緑としての機能を果たしている。しかし、そうした湧水地も平成3～9年の資料に基づき平成12年に市環境局で調査を行ったところ、約40%が枯渇または消失していたという。平成15年度にあらためて調査を行ったなかでは、市内の多摩川流水系では199箇所(注)の湧水ポイントが見つかったが、これらも都市開発による緑の減少等により、ますます減っていくことが予想される。行政の区域や都市開発の地図だけを見ていたのでは見えない、「流域」すなわち水や緑の自然の地図があることを、この航空写真は教えてくれる。多摩川の「流域」を考えることは、まちの未来の姿を考えることにつながる。



【図3-5】多摩丘陵と多摩川の航空写真

提供：まちづくり局都市計画課

②市民の活動と「流域思考」

では、市民は多摩川の「流域」をどのようにとらえているだろうか。平成17年度に実施した川崎市民意識実態調査によると、今後の多摩川に関する施策を進めていく上で重要なことをた

ずねたところ、親水空間の整備や、トイレやスポーツ施設などの施設整備をおさえ、「生態系の保護と豊かな自然空間の創出」を望む声が約45%ともっとも多かった。これが即「流域思考」につながるとは言えないが、自然を育む場所としての多摩川が意識されていることがわかる。

平成13年3月に市が策定した「多摩川エコミュージアムプラン」には、流域という視点がすでに盛り込まれている。プランのなかでは、流域の自然や歴史、文化などの資源をつなぎ、市民活動のネットワークを推進することがうたわれており、多摩区宿河原の二ヶ領せせらぎ館を拠点に、市民を主体とした様々な活動が展開されている。その内容は、多摩川を通じた子どもたちの体験学習や環境学習を支援する団体、多摩川の支流である平瀬川や二ヶ領用水で清掃や植樹などのまちづくり活動を進める団体、各区の市民健康の森や里山で緑の保全に関わる団体、ふるさとの歴史遺産を発掘する団体、と様々であり、それぞれのフィールドで熱心に活動している（106ページ、資料編）。そのフィールドは、市内全域に散りばめられており、多摩川流域で活動している団体も数多い。ただし、そうした団体のすべてが、必ずしも多摩川やその流域のつながりを意識しながら活動しているわけではなく、ネットワークも一部の団体の間でしかできあがっていない。とくに川で活動する団体のネットワーク、市民健康の森に関わる団体のネットワーク、里山保全のネットワークなど、分野ごとのネットワークの事例はあっても、分野を越えた「多摩川流域」としてのネットワークの部分が弱い。基本はそれぞれの活動であるが、「流域」という共通意識をもって活動すると、森も川も海もまちもお互いにぐっと近くなる。このあたりに今後の展開の余地がありそうだ。

<森の活動の一例>



【図3-6】ぼっこ祭り／日向山うるわしの会
提供：NPO法人多摩川エコミュージアム

<川の活動の一例>



【図3-7】カヌー教室／とどろき水辺の楽校
提供：多摩川施策推進担当

<歴史・文化の活動の一例>



【図3-8】多摩川散策こみち／たま・エコ・PJ
提供：NPO法人多摩川エコミュージアム



【図3-9】たま・エコ・PJ作成のマップ

③市の施策と「流域思考」

それでは、市の施策自体においては、多摩川やその流域のつながりはどれほど強く意識されているだろうか。例えば、市の環境基本計画には、「水循環構造の保全」が施策の一つとして入っており、「川崎市地下水保全計画」(環境局)に基づき、多摩川・鶴見川の湧水調査や透水性舗装の導入等が行われている。現在改定中の「緑の基本計画」(環境局)においては、湧水や斜面緑地、里山、農地の保全、緑の回廊づくりなどを有機的に結びつけ、緑の量と質を高めていこうという試みが見られる。川崎臨海部「水と緑のネットワーク」構想(総合企画局)や、各区の基本構想となるべく作成中の都市計画マスタープランのなかでも、「流域」もしくは「水と緑のネットワーク」という似たようなキーワードが多く見られる。これらのなかには、水循環や生態系を支える水と緑として強く意識されている場合と、快適な都市空間としての景観的な水と緑の連続性を意識している場合とが交じり合っているが、いずれにしても「流域」もしくはそれに類似する理念が、市の様々な計画に入っていることがわかる。

しかし一方、こうした理念を実際の施策として推進していくにあたって必要な情報は、それぞれの計画・構想の切り口やフィールドごとに個々の担当部署、もしくは関係部署の連絡会議等で収集・整理しているのが実態である。とくに、町内会等によるボランティア活動や市民活動団体の活動などの生きた情報は、関わりのある部署の中でとどまってしまっている。多摩川の情報発信・市民活動拠点である二ヶ領せせらぎ館も、市民が行政との協働のもと精力的に活動を展開している事例として全国から多数の視察や問合せを受けている施設であるが、存在自体を知らない市職員も多い。「流域思考」をもちながら多摩川に関わる施策を進めるにあたっては、こうした様々な関連の情報が、全体の情報として十分に共有され、施策に反映されるような状態にしていくことが求められる。

(2) 提言

①流域バーチャルマップの作成

以上のことから、現在、庁内の各部署で持っている多摩川流域の湧水や緑、支川、川、海等の保全状態や施策の情報、それぞれのフィールドで活動している市民団体の情報を集約し、その情報を庁内や市民団体の間で共有できるように、手始めにマップ等の目に見える形に表し、ホームページや情報誌などによる情報発信を行っていくことを提言する。

そのマップの例として、イメージを作成してみた(別紙、マップ参照)。まちづくり局都市計画課作成の土地利用現況図をもとに、環境局環境対策課で調査した湧水ポイント、緑政課で把握している緑地保全の団体、多摩川施策推進担当で把握している多摩川関連の市民活動団体等を重ねたものである。流域を意識できるよう、建設局河川課作成の河川図より水系界を抜き出し重ねた。短期間で集めた情報で作成したものであるため、不十分な部分が多い点や、地図のサイズの都合上、細かくわかりにくくなってしまっている点をご容赦いただき、あくまでもイメージとして見てほしい。

このような流域マップを作成し、さらにそれをホームページ上で公開し、それぞれのポイントをクリックすれば、そのフィールドの保全状態や、市の施策展開の内容、そこでの市民活動の様子が写真入りで見られるというしくみにしたい。こうした情報共有が、市の効果的な施策

展開に結びつくことが期待できる。また、現在活動している市民活動団体が、自分たちの活動のフィールドがどの川の流域に属し、どの森や川、海、まちとつながっているのか、どんな団体とつながりを生み出していくと活動の幅が広がっていくのかなど、意識しながら活動していけるような後押しにもなるだろう。

このマップを基本に、様々なバリエーションのマップの作成が考えられる。例えば、基本のマップに、雨水の浸透の状況や、地下の水脈を重ねるなど充実させていくことで、特に活動していない人にとっても、日頃見慣れている近所の林や小河川、ひいては自分の足もとの地面がその先の多摩川や東京湾などにつながっていることや、それらが様々な取り組みによって支えられていることを感じられるだろう。歴史遺産や文化遺産の情報、生物の情報を重ね合わせれば、区域をまたいだ流域のお宝マップができあがる。

②ネットワーク型事業への展開

上に挙げたようなマップを共有化していくとともに、流域で活動する団体や市の担当部署が一堂に集まり、日頃の活動の情報交換や意見交換を行うシンポジウムなどのしかけも有効である。実際に、マップを参考に現場を歩いたり作業をしたりして、「流域」に興味をもってもらうイベントなども楽しい。昔の地図と現在の地図を重ね合わせ、市街化により変化した町並みや蓋をされ暗渠となってしまった川筋をたどりながら多摩川まで出る、というのも、まちの歴史や現在のありようを考えるきっかけとなる。現在、多摩川施策推進担当では、多摩川に関する総合的なシンポジウムを平成18年度に向けて計画中であるが、こうした事業が、団体同士でお互いの活動現場を訪れたり、合同でのイベントを開催したりするなどのネットワークを生むきっかけとなるような工夫が求められる。また、行政自身も、緑や湧水、川、まちづくりに関する施策のヒントを得たり、既存の施策を相互に活かしていくきっかけとしていきたい。

さらに、実際に集まるしかけだけでなく、市民や企業、行政など各主体が多摩川流域で実施するイベントなどの一覧をホームページ等で紹介し、参加者やボランティアを募っていくことで、いつでも流域のどこかで何らかの活動が行われていることになり、これから地域活動を始めたいと考えている市民にとっても、入りやすい入口となるだろう。

これらの、マップの充実やホームページの作成、流域交流イベントなどは、はじめは行政がコーディネートしていくが、後に市民が、企業や行政と協働しながら積極的に音頭をとって進めていくことが理想である。今年度から、市民便利帳「かわさき生活ガイド」が地元密着型の新聞社との協働作製により一新され、これまでの行政情報だけでなく、民間の病院や商店の情報などより生活に密着した情報が掲載されるようになった。これは、民間企業の取材ネットワークを活用することによって市民満足度を一層高める新しい取り組みであり、市民や企業との協働の可能性を端的に表している例である。

このように、流域という概念を共有する市民や企業市民、自治体職員を増やしていくことで、多摩川をはじめ自分たちの足もとの地域をふるさととして大事にしようという気持ちが随所で形になり、ゆるやかにつながりながら相乗効果が生まれてくること、この提言の最大の目的である。

(3) 今後の課題・展開

①市域を越えたネットワークへ

この提言では、まずは市域のなかで「流域」を紡ぎなおすことを主眼に置いたが、もちろん多摩川流域全体は、源流から河口まで多くの自治体にまたがっている。市の中でのつながりが見えてきたら、同時に市域を越えたつながりへと広げていくことが必要である。ヒントになるのは、川崎市が音頭をとって近隣の横浜市や町田市、NPO等と連携して行っていこうという「緑の回廊」構想である。関係自治体は全部で11市1町におよび、市域をまたいだ散策路マップ作りなどの具体的な連携事業も既に始まっている。多摩川に関しても、河川管理者である国土交通省京浜河川事務所が主宰する「多摩川流域協議会」等のしくみが既にあるが、自治体により関わり具合に温度差がある。こうした場を、自治体間のより具体的な連携事業が生まれて来る場として活用していくことが課題である。

また、市民の動きとしては、鶴見川流域で活動する「特定非常利活動法人鶴見川流域ネットワークキング」(通称TRネット)の取り組みが活発である。鶴見川流域の各所で活動する団体が緩やかにネットワークを組み、全体として、年間を通じた河川の清掃活動や緑地管理、自然観察、ウォーキングマップの作成など様々な取り組みが行われている。活動は個々の団体それぞれであるが、情報をたばね、コーディネートしていくTRネットという団体があるからこそ、流域全体の動きが非常に見えやすくなっている。鶴見川の流域の形を動物の「バク」に見立ててキャラクターに起用している点も楽しく、流域意識の醸成に一役買っている。近年では、大掛かりなクリーン作戦などのイベントの際には、地元企業に協賛を求めなどの動きも見られる。企業側も、社会貢献活動に取り組むにあたっては、このように広がりをもったネットワーク団体に支えられ、かつ森づくりや清掃イベントなど社員が参加しやすく社会に対してもアピールしやすい活動は、受け入れやすいと思われる。



【図3-10】TRネット発行のマップ

多摩川においても、「多摩川流域ネットワーク」(通称TBネット)という流域を越えた市民のネットワークが広がりつつあり、「多摩川水系河川整備計画」に関する自主的な学習会を開催したり、行政との協働で整備計画のフォローアップとして機能する多摩川流域セミナーを運営したりと活動を行っている。流域の団体を束ねるという形ではなく、多摩川に関心のある個人の集まりで組織されている緩やかなネットワークであるが、実際に関わっているのは、源流から河口・海までそれぞれの団体で中心的な役割を担うメンバーがほとんどであり、貴重な情報発信・意見交換の場となっている。

行政だけで関わると、なかなか行政域や担当部署の枠組みを越えるのが難しいが、その垣根を自由に越えていくのは、市民主体ならではの活動の特徴である。提言で挙げたようなマップづくりやイベントをきっかけに、このような市民主体の緩やかなネットワークづくりを促進していくことが今後の展開として期待される。

②学校教育での取り組み

もうひとつの課題として、学校教育に多摩川学習や「流域思考」を組み込んでいくことが挙げられる。教育現場での取り組みにおいては、川崎市の学校では、多摩川に近い学校を除いて、多摩川やその流域という観点が直接的に授業で取りあげられることは少ない。二ヶ領用水については、小学校4年生の社会科で「先人の知恵」という単元で学ぶので、そこで多摩川の話が「利水」の側面で多少出てくるくらいである。環境学習では、洗剤や油を流すと川や海が汚れる、ということを知るが、一度も多摩川に行かず、どんな生き物が多摩川に住んでいるかを実際に目にすることがなければ、あくまでも一般化された川や海を想像するしかなく、いまひとつ実感に欠けるだろう。

また、現在、川崎市民が飲んでいる水の大半は、相模川から引いてきているが、第1章-3でふれたように、多摩川の伏流水も全体の1/3を占めている。この事実は残念ながらあまり知られていないのではないか。小学校4年生で学習を行う時の「水」は、主に遠く離れた相模川の水を対象としている。社会科見学に行くのも、受入れ体制が整っていることとあいまって、相模湖のダムや、浄水場、水処理センターなどの施設が多くなっている。水道の蛇口から出てくる水や、排水溝から流れていく水の学習はもちろん大切だが、大地を潤し、地下水を涵養し、生物を育む流域としての生きた水や川の話もぜひ取り入れてほしい。

(提言7と関連)

【提言4】 源流に行こう！ ～源流と河口というほかにはない特別な関係～

(1) 現状

①多摩川源流の魅力

多摩川を知るには流域に目を広げ、その一番奥つまり源流にふれようと研究会メンバーで訪れた山梨県小菅村で、私たちは源流の素晴らしさにふれた。澄んだ空気と静寂、そこに住む人たちのあたたかさは、都市部では得がたいものであった。今回は残念ながら、水干での多摩川の最初の一滴を見ることは出来なかったが、源流の森に抱かれ清流に手をひたすと、これまでの多摩川観は一気に覆った。山に降った雨が、長い時間をかけて少しずつ堆積した腐葉土と、そこに根を張る木々に染み込み、また地表に染み出す、こんなに小さな水の流れがいくつも集まり、河口でゆったりと流れる多摩川になるのだと、自然の神秘と多摩川の底力を感じた瞬間であった。

その多摩川の河口に位置する川崎に暮らす市民に、ぜひこの源流の素晴らしさにふれ、源流の村の人たちとふれあう機会をもってほしい。交通の便は決してよいとは言えないが、観光地化された奥多摩湖の周辺とはまた違う魅力がある。多摩川の源流にふれ、村の人たちとふれることで、源流がぐっと身近になり、流域の広がりを感じるとともに、目の前を流れる多摩川との距離がより近くなっていくだろう。



【図3-11】多摩川源流

出典：多摩川源流研究所IP



【図3-12】下流部の多摩川（幸区）

提供：多摩川施策推進担当

②源流との交流

源流との交流は、これまでも小学校や市民団体による実践がある。例えば、多摩川に接する古市場小学校（幸区）と源流の丹波小学校（丹波山村）は、平成元年から教員同士の交流が始まり、子どもたちの交流は5年程前から始まったという。現在は、夏休みの1泊2日、4年生以上の希望者40名を募り、バス1台を学校側で仕立てて、川遊びや自然観察、夜の学校での肝試しや花火大会などで丹波山の子どもたちと交流している。逆に、丹波小学校からは、5、6年生が修学旅行で東京に行く際に、古市場小学校に寄って交流を行っている。小菅村同様、丹波山村には高校がないため、子どもたちは中学を終えると進学などのため村を出ていく。丹波小の教師には、こうした交流がふるさとの思い出作りのひとつになれば、という思いもあるようだ。

市民団体の事例では、河口から源流までを歩く団体がいくつかある。そのひとつ、「多摩川と語る会」（106ページ、資料編 NO. 16）では、自然観察や流域の歴史・民俗にふれながら、数年かけて日を分けて少しずつ上流まで歩くという実践を行っており、これまでに大勢の市民が参加しているという。

また、「水辺の楽校」では、多摩川源流研究所の協力で、源流体験や笠取山登山、バーベキュー、川遊び、魚つかみなど盛りだくさんの夏休みキャンプを行っており、子どもだけでなく保護者やスタッフを含め大勢が参加している。18年度は、さらに現地の子どもたちとの交流もプログラムに入れて計画しているようだ。

私たちが実際に、源流体験のフィールドに案内してもらい説明を聞いたのだが、源流体験により子どもたちの目の輝きが変わるというのがよくわかった。「自分たちの住むまちに帰ってからも子どもの心に源流が流れ続ける」という多摩川源流研究所の中村所長の言葉は、まさに源流にふれることで、多摩川が身近な存在になることを表している。子どもも大人も、もっと大勢の市民にこの体験にふれてほしい。

一方、源流の側でも、多摩川流域の市民や自治体に、源流の村の素晴らしさをどんどんPRしていきたいという思いがある。過疎の問題や観光促進といった地域活性化の面もちろんあるが、何よりも、この素晴らしい源流の自然をみんなで守っていきたいという思いがあり、様々な取り組みを行っている。小菅村と多摩川源流研究所等で主催する、源流の森を育てる「森林再生プロジェクト」のボランティア募集のちらしには、こんな文章がある。

「…森林は緑のダムにたとえられ、たくさんの役割を担っています。木を育て、水を貯え、空気をきれいにしたりなど、私たちの暮らしや命と密接に関わっています。森林を育てることは、川と海とふるさとを守ることです。…」

森づくりには、ほかにも、様々な企業や、東京農業大学などの大学が関わっている。また、毎年5月の連休中に開催される多摩源流まつりなど、源流の味覚も楽しめる大きなイベントも行われている。

こうしたイベントも含めた源流の情報は、小菅村と多摩川源流研究所のホームページのほかにも、情報誌「源流の四季」で届けられる。新聞掲載については、小菅村をはじめ多摩川の源流の村は山梨県に属するため、山梨県の新聞には掲載されるが、本当に届けたい多摩川流域の側には情報が届かないという悩みがあるという。



【図3-13】とどろき水辺の楽校 源流体験
提供：とどろき水辺の楽校



【図3-14】源流の四季 第19号

(2) 提言

①源流の情報発信と交流学習会

以上のことから、多摩川の源流に関する情報発信の促進と交流学習会を提案する。

情報発信については、今後、多摩川施策推進担当でも多摩川に関するホームページ開設の予定があるということなので、まずそのなかで源流特集のページをつくり、源流のすばらしさを伝えるとともに、小菅村をはじめ源流の自治体や多摩川源流研究所のホームページにリンクをはる。ページ内容については、源流研究所の方々にアドバイスをいただくと良いものができるであろう。また、提言3で挙げたような流域イベントや多摩川ランフェスタ（多摩川で開催される市のハーフマラソン大会、駅伝大会）などの折に、源流紹介コーナーとして、源流の写真や特産品を展示したり、源流の水で入れた麦茶やコーヒーを用意するなど有効である。とくに多摩川源流の写真については、源流研究所の中村所長が素晴らしい写真を撮りためているので、それをお借りできればと思う。

また、交流学習会としては、源流の自然を観察したり体験しながら学ぶ試みが考えられる。小菅村には、川崎にはない様々な資源がある。先に述べた自然の豊かさや里の風景はもちろんだが、ヒノキの間伐材をおがくずにして、村から出る生ゴミと混ぜて土壌改良剤を作ったり、その際に出るヒノキエキスを精製して芳香剤などをつくる小さなリサイクル施設などもある。温泉施設や、キャンプ場から民宿、旅館まで宿泊施設も整っている。源流体験の達人はもちろん、例えば干し柿作りなど都会の生活の中では伝承されなくなった知恵をもつお年寄りもたくさんいる。これらの資源を活かして、現地の人たちと交流したり活動に参加したりするエコツアーを組んでみてはどうだろうか。参加者が、現地で見つけた素敵な風景やものを写真に撮り、村の人を交えた写真コンテストを行うことで、地域の人たちが村の宝にあらためて気がつくという交流のしかけも考えられる。中高年の登山ブームの折、都会人が自然の豊かな地域に、単なる観光客、消費者として訪れるだけでなく、その地域のまちおこしや未来につながるような交流を進めていくことが大切ではないだろうか。

なお、川崎の子どもたちが源流にふれる機会を増やしていくために、あわせて町内会の子ども会や、小・中学校、PTAなどへの源流体験のPRを行っていくことも有効である。八ヶ岳での宿泊体験も良いが、源流側の受入れ可能な人数等の条件が合えば、多摩川源流域での宿泊体験学習も、多摩川が子どもたちにとって身近なものになるためにぜひ取り入れてほしい。



【図3-15】小菅村林業廃棄物処理施設



【図3-16】笠取山山頂にて

②河口（下流部）の自治体としての情報発信と交流学習会

小菅村でのヒアリングのなかで印象に残ったのは、「源流と河口というほかにはない特別な関係を活かして、川崎市と地域交流を行いたい」という廣瀬村長の言葉だった。また、源流研究所の中村所長の源流への熱い思いを聞き、あらためて、川崎も河口のまちとしての情報発信に取り組んでいくべきだと感じた。

多摩川は源流から河口まで138kmを流れており、その中流域から河口にかけて位置するのが川崎市である。川崎市は、約30kmと流域の自治体の中で一番長い部分を接しており、感潮域や河口干潟など、特色ある自然が存在する。とくに、川崎側の工場と対岸の羽田空港をバックに広がる河口干潟は、非常に特異な景観を作り上げている。また、鮎の一生のサイクル、つまり多摩区あたりで産卵が行われ、孵化した稚魚は川を下り河口付近で大きくなり、堰を越えながら川を遡上し、成長して産卵を行うというサイクルのすべてをカバーしている自治体でもある。歴史的にも、水質の急激な悪化や都市化など大きな変化を経験してきており、上流からのゴミや排水が流れ着く終着点ゆえの課題も抱えている。こうしたゴミや水質の問題、生態系の保全、水を育む緑の保全、対岸も含めた景観の問題等、市域だけで多摩川をとらえていたのでは解決しない課題は色々ある。こうした課題の解決のためにも、源流をはじめ流域自治体に向けて、積極的に多摩川河口部の魅力や課題等について情報発信していくことが、多摩川の河口という特別な位置にある川崎市の役割のひとつではないだろうか。

また、以上のような情報発信にあわせて、源流や上流域に呼びかけて、下流へ招く交流学習会を行うことも有効である。例えば、小菅村の隣の道志村では横浜市の水源地があることから、横浜市との交流が行われており、道志村の住民が横浜市を訪問し、船での港見学や中華街見物を行うツアーなどが行われ、道志村でもたいへん人気の企画だということである。もちろん、あくまでも学習会ということで、川崎市で実施する場合には、たとえば干潟のヨシ原にたまるゴミの清掃活動を続けている地元の「多摩川遊クラブ」（107ページ、資料編 NO. 16）の方々と一緒に活動を行ったり、干潟の生物観察を行ったり、二ヶ領せせらぎ館見学、などの内容も入れたい。そのうえで、港湾局の協力で船での臨海部の見学や、工場見学、岡本太郎美術館、青少年科学館のプラネタリウム「メガスターII」見学などのお楽しみも入れられれば、川崎のシティセールスにもなる。ルートとしても、多摩区と河口部あたりにポイントがまとまっており、ちょうどよい。

(3) 今後の課題・展開

①源流資源の活用

ここでいう資源とは、先述の源流の間伐材やリサイクルで出る土壌改良剤、ヒノキエキスなどのことである。小菅村でのヒアリングの際に、こうしたものをぜひ流域全体で活用してほしいという要望があった。土壌改良剤などは国が実施する河川改修での活用が考えられるほか、市としては毎年5月に等々力緑地で実施される「花と緑の市民フェア」で販売するなどの形で協力できるのではないだろうか。また、多摩川に花畑を作るなどの際には、こうしたものを積極的に活用してはどうか。

②交流都市の検討

源流と河口の自治体として、小菅村などと交流都市になるのはどうか。東京都の水源林とのイメージが強いが、上で述べてきたように川崎市が今後、多摩川とのかかわりを深めていく上で、源流との交流はどうしても必要不可欠なことだと考える。ぜひ交流都市の検討を進めてほしい。

4 拠点を活かした取り組み

【提言5】 幸区船着場 ～賑わいの創出～

(1) 現状

①幸区船着場とは

幸区船着場（図3-17、図3-18参照）は、2000（平成12）年、震災発生時に、海上から多摩川を通じて搬入・荷揚げする緊急用船着場として、国により整備された。また、一般道路が通行できない場合に輸送ルートを確認し、川から救援物資や復旧用資材を輸送するための「緊急用河川敷道路」と共に整備が進められている。



【図3-17】 幸区船着場周辺の地図



【図3-18】 幸区船着場

提供：多摩川施策推進担当

②歴史ある場所

1914年（大正3）頃、横浜精糖（後の明治精糖）が原料荷揚場として船着場を利用したのを皮切りに次々と工場が建ち、多摩川を使用した輸送が盛んに行われるようになり、京浜工業地帯が形成されたが、1923年（大正12）関東大震災によって工場のほとんどが崩壊してしまった。この崩壊を機に工場では最新式の鉄筋作りの荷揚げや施設を作り、この施設の足場をしっかりと築いたのが、赤レンガや石積みによって護岸を固めた「レンガ堤」である。

1989年（平成元）、JR京浜東北線の鉄橋下から幸派出所交差点付近まで、約300mに渡って階段護岸が整備された。昔の「レンガ堤」の名残も見られ、秋にはこの辺りの銀杏並木が美しい黄色に彩られる。

③立地条件の良さ

JR川崎駅から船着場までの道路は整備され、国道409号線上には、斜路や連続した手すり、エレベーター付きのさいわい歩道橋（図3-19）が掛けられているためアクセスが良い。途中の歩道には、多摩川の魚や市の花を描いたパネル（図3-20）が埋め込まれており、多摩川へのアプローチを印象付けている。近くには公衆トイレやコンビニエンスストアもあり、また、交番もあるため、安心してくつろぐことができる。

JR線の車窓からも良く見え、川崎の顔となっている。近くには川崎ロータリークラブが管理している自主管理花壇や多摩川施策推進担当が試験的に管理している菜の花畑(図3-21)が人々を魅了している。

④ホームレス住居

適度な木陰があり、交通量の多い道路から死角となっていることなどから、ホームレスの住居が立ち並び、人を多摩川から遠ざける一つの要因となっている(70ページ、図3-2参照)。



【図3-19】さいわい歩道橋
提供：多摩川施策推進担当



【図3-20】路上のパネル
提供：多摩川施策推進担当



【図3-21】菜の花畑
提供：多摩川施策推進担当

(2) 提言

オープンカフェの開催

オープンカフェは、パリを除いて欧米での歴史は約20～40年と浅く、歴史的、自然発生的というよりも「にぎわいの創出」という意図をもった「政策」として実施されている。日本においても、2004(平成16)年、都市再生プロジェクトや地域再生計画で国の支援措置の一つとして河川占用の弾力化(占用許可準則の特例措置)が示され、河川管理上のチェックと地域の合意形成を前提としてオープンカフェなどの商業利用の実施が社会実験という形で可能となっている。例として、「水の都大阪再生構想」で大阪市・道頓堀川、「水の都ひろしま構想」で広島市・京橋川(旧太田川)(図3-22)などで試行的に実施している。川崎でも利用者アンケート(2005年度実施)で「コーヒーショップがほしい」との要望があったこともあり、さらに昨年からは、かわさきTMO*が市民祭りに合わせて「イベントスタンプラリー」を開催しており、この地元の賑わいづくりと船着場を連動させることで、より一層この場所の魅力をPRできると考える。



【図3-22】広島・京橋川のオープンカフェ

出典：arch-hiroshimaオープンカフェの発

オープンカフェの効果として、以下の5つが考えられる。

(ア) 賑わいの創出

屋内の喫茶店やレストランと違い、お年寄りや乳幼児を抱える家族にとって気軽に利用しやすく、居心地がよく、孤独感の解消エリアとしての魅力ができる。商業施設でもなく、公園でもない新しい都市空間の創造が可能となる。現在でも、平日の昼間には、ソリッドスクエア周辺でお弁当販売の車やパラソルが並び、近隣企業で勤める人たちなどで賑わっている。船着場でオープンカフェを開催することによって、そのような人たちを呼び込める可能性が期待できる。

(イ) 回遊性の向上

2006(平成18)年秋、川崎駅西口に敷地面積約11万 m^2 の広大な敷地に新たに大型複合商業施設「ラゾーナ川崎」が竣工し、駅東西口の回遊性の向上と合わせ、船着場までの人の流れが期待できる。歩き疲れた時、ここで休憩した後、さらに遠くに足を延ばすことも可能で、後述する

* Town Management Organizationの略。川崎駅周辺の中心市街地活性化を推進する中核的な組織で、様々な団体との調整を図りながらまちづくりに関する事業の企画、立案、運営を行う。

船運による河口地域までの人の出入りに結びつけることができ、河口地域の活性化にも繋がる。

(ウ) 景観の向上

自主管理花壇と合わせて多摩川とマッチした演出をすることで、高架を通る電車からの印象も上がり、川崎のイメージアップが図れる。現在、マイナスイメージとなっているホームレスの緩やかな退去が期待できる。

(エ) 公共資産の有効活用による歳入増加

今までお金を産み出さなかった土地から仮設の小型店舗、移動式屋台の設置等により現金収入を得ることができる。

(オ) 川セラピー

河川には人の脳波や脈拍と同調できる空間があり、このような場所に身を置くことによって心身を癒し、活力を養い、健康回復や生活の質や満足感を高めるのに役立てられる。

(3) 今後の課題・展開

今後の展開として、以下の5つが考えられる。

(ア) ライトアップと噴水による演出

ライトアップや噴水による非日常的な空間を演出することにより、水辺の楽しみ方としての魅力的な空間を作り出すことが期待できる(図3-23参照)。JRの車窓から見ることもできるため、シティセールスの一環と成り得る。

(イ) 水上コンサート等イベントの開催

区役所のロビーで開催している夢コンサートを行ったり、ウォータースクリーンを利用した映像コンサートや音楽祭を開催することにより、一味違った「音楽のまち川崎」をアピールできる(図3-24参照)。



【図3-23】噴水(左:昼/右:夜)
出典:噴水と霧の株式会社IP



【図3-24】ウォータースクリーン
出典:株式会社レジャーリIP

(ウ) 水上バスの運航

1996(平成8)年から、経済局が多摩川リバーサイド観光開発として、船着き場からお台場まで水上バスを運航した時期もあったが、利用者が少ないこと、運航ルートのマナー化及び時期によっては浅瀬ができて座礁したため、2001(平成13)年、廃止された。

しかし、賑わいを創出することにより、水上バスについて



【図3-25】水上タクシー
出典:大崎市HP

再度検討する可能性ができる（図3-25参照）。特に「大師河原河川防災ステーション」と幸区船着場間の運航は、非常時に即座に対応できる体制を確保するためにも、定期的に運航を行うことが必要である。また、干潟やユリカモメ（図3-26）など、自然豊かな多摩川にふれることができや、河口特有の林立する工場群を眺めることで、川崎市の原点にふれることができる。



【図3-26】 船をおいかけるユリカモメ

（エ） 菜の花畑

現在、多摩川施策推進担当が試験的に植えた菜の花があり、2006（平成18）年3月には新聞紙面を賑わせた。このような取り組みを継続的に続けていくためには、提言1に基づいた市民との協働による花づくりが重要である。

（オ） 手形レンガの活用

水処理センターより発生した汚泥を活用して手形レンガを作り、これを護岸工事や整備計画の中で使用していくことにより、人々の多摩川への愛着が高まり、リピーターを増やす効果が期待できる（図3-27、図3-28参照）。



【図3-27】 国道409号線のイチヨウ並木
提供：多摩川施策推進担当



【図3-28】 手形レンガによる舗装
（石川県富来町）

今後の課題として、以下の7つが考えられる。

- ・ 退去後のホームレスの受け入れ先の確保及び、自立支援対策が必要である。
- ・ 区役所の協働推進事業での多摩川の活用。
- ・ 周辺住民の意見（特にイベント開催について）の反映。
- ・ 人が水際まで近づけるメリットがある反面、船着場付近の水位は深いため大変危険である。安全確保を行う必要があり、防護柵の設置、浮き輪の配置等の対策が必要である。
- ・ オープンカフェに関係する行政組織は、多く存在し、かつ縦割りであることから、統括的に調整する部所が必要である。
- ・ 花壇については、維持管理も必要であるが、それ以上に土作りが重要なウェイトを占めている。継続的に進めていくためにも、技術をもった人の協力を得られるような支援体制づくりが必要である。
- ・ 人が集まり賑わいが生まれる反面、モラルの低下によるゴミ問題（図3-29参照）が発生する。提言2のような定常化した活動が必要である。



【図3-29】船着場周辺のテトラポットのゴミ

提供：多摩川施策推進担当

【提言6】 等々力 ～市民ミュージアムを中心とした試み「多摩川とともに」～

(1) 現状

①多摩川と等々力



等々力緑地論争許状(複製) 原資料: 個人蔵

【図3-30】 等々力緑地関連資料

出典: 川崎市市民ミュージアムHP

等々力は南北に細長く伸びる川崎市城の中間に位置し、JR南武線と東急東横線の交差するターミナル駅である武蔵小杉駅を最寄駅とする、川崎市の「へそ」といふべき場所である。

等々力の地名は対岸の東京世田谷にも存在するが、これはかつて一つの村であったものが、暴れ川である、多摩川の氾濫により分割され、兩岸に同様の地名が存在することになったためである(図3-30参照)。

等々力緑地内にある、釣池については多摩川の砂利採取場跡地であり、多摩川のほとりにあるという立地だけではなく、歴史的にみても多摩川とゆかりの深い場所である。

②等々力周辺一帯の現況

川崎市における等々力の位置付けは、等々力緑地一帯を中心とした、文化・スポーツ関連施設の集積地であるとともに、ターミナル駅である武蔵小杉駅に近いことから、周囲には病院、学校、商店街等が多く立地する本市中部地区の中核エリアである。

多摩川における等々力は、武蔵小杉駅南口再開発計画が、横須賀線新駅計画とともに急ピッチで進み、市内で最も変貌しつつあるエリアから、程近い場所に位置しているとともに、市民に安らぎを与える水辺と緑地空間が、堤防上の桜並木とともにひろがっている。

また、かつて洗剤の泡が舞い、高度成長期の水質悪化のシンボルでもあった時代を経て、魚道を鮎が遡上するまでに水質が改善した、劇的変化ポイントの調布堰直上流部に位置しながら、中流部特有の緩やかな河流と、河流が大きく蛇行し、かつての暴れ川の姿を偲ぼせる、市城の多摩川沿岸のなかでも、賑わいと安らぎ、静と動が交錯する、特色あるエリアである。



【図3-31】 等々力緑地周辺航空写真

出典: 国土地理院HP



【図3-32】 等々力緑地周辺地図

⁴ 1717年の等々力、小杉両村の境界争いの際に作成された境界論争被許状であり、図の裏には幕府の規定文が記され、幕閣の人々の捺印が見られる、その中には大岡越前の捺印もある。

(2) 提言

① 施策への可能性 ～ピンチ（岐路）をチャンス（施策）に～

航空写真や地図上で等々力緑地周辺を見てみると、多摩川の水辺と緑地が途切れることなく、等々力緑地の水辺と緑地に連続性をもった回廊のような導線で一体となっているのが良く分かる、また、現地の多摩川堤防上から等々力緑地と多摩川の両空間を眺望すると緑の回廊を体感できる、そのようなポイントは川崎市域の多摩川沿岸では等々力以外にない、そのような、等々力の持つ特異性を考慮しつつ、緑地内に群立する川崎市営施設の、多摩川に関わる新たな活用法の可能性の検討してみる。

今回の提言ではあえて、現在、岐路に立たされていると思われる施設を検討してみたい、なぜなら、今回の提言対象はあくまで多摩川ではあるが、多摩川だけに施策の効果を見出すのではなく、川崎市が抱える多摩川以外の課題と併せて、相乗的に施策を行なうことに意義を見出したい。それこそが、これまで多摩川が一級河川故の宿命としていた、国の施策との住み分けを実現できる手法の一つと考える。「ピンチ（岐路）をチャンス（施策）」をテーマに等々力緑地内に立地する川崎市営施設である「川崎市市民ミュージアム」の施策への可能性を検討する。



【図3-33】 等々力緑地案内図

② 川崎市市民ミュージアムでの試み

1988年に開館した市民ミュージアムは、開館17年目を迎えた現在、大きな岐路に立たされている。外部監査によって、民間企業では倒産状態だと指摘されたが、館長を公募するなど、運営手法の改革改善に向け、積極的に様々な試みを行っている。試みの一例では、同じ等々力の地にある、等々力競技場をフランチャイズとする、川崎フロンターレの応援企画展示会を開催し、フロンターレファンを中心に好評を博し、来館者数を大きく伸ばして、恒例企画化している等、まさに地元川崎、等々力に根ざした企画を生み出している。



【図3-34】 市民ミュージアム外観

市民ミュージアムの多摩川関連の現状に目を向けてみると、多摩川に関する展示は常設されており、常設展示のメインである歴史民俗展示室において、多摩川に沿って形成されてきた川崎の歴史を「水と共同体」というテーマで展示し、テーマを民俗・考古・歴史の3つに分類し、そのなかの「歴史」において「多摩川と村」という視点で、多摩川と用水（二ヶ領用水）と人々の生活を「村」という共同体の領主支配のかかわりの中で展示している。

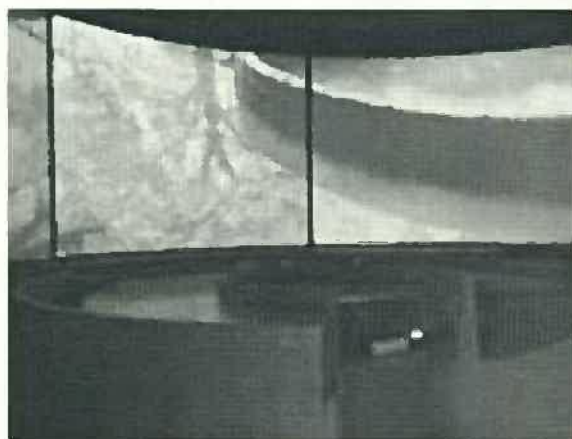
(ア) 市民ミュージアムにおける小学生と市民活動団体との交流

常設展示については、現在、市内小学校の4年生が定期・恒常的に来館見学しており、展示の解説を中心とした見学方法がとられている。この見学の一部に、多摩川に関連する活動を行っている市民活動団体との交流の場を盛り込むことを提案する。それによって、教科書や机上の学習ではないアプローチで、身近に流れる多摩川を学び、感じる機会を提供することができ、生徒は多摩川への興味をさらに深めることができる。また、交流する市民活動団体も自分たちの活動をPRする場とな



【図3-35】常設展示

出典：川崎市市民ミュージアムHP



【図3-36】円筒分水模型

出典：川崎市市民ミュージアムHP

りえる。

それは、既存の見学に盛り込むものであり、また、市民ミュージアムは受け入れ条件として、市民活動団体の活動趣旨に賛同できるものとしているため、実現可能なものと期待できる。そこでは、市民活動団体との調整、及び市民ミュージアムへの企画書提出などが必要と考えられる。

市民ミュージアムが目指すもの、それは発信展示対象の市内・市外向けの明確な色分けであり、ミュージアムが独り歩きするのではなく、その名の如く「市民のミュージアム」

であることで、まさにその方向性に一致する有意義な試みではないだろうか。

(イ) ギャラリースペースの有効活用

これまで市民ミュージアムが開催した川崎の風景をテーマにしている絵画・写真展等において、多摩川を題材としている作品は、割合に多少の違いはあるが、数多く出品されており、川崎の風景に多摩川は欠かせない存在である。現在、市民ミュージアムでは、ギャラリースペースの有効利用を進めようとしている。

市民活動団体と市の協働により定期的に多摩川に関連する展示を開催することで、活動スペースを求める市民活動団体と、「市民のミュージアム」を目指す市民ミュージアムとが、互いに有益な試みを行うことができる。それとともに、有償のプロの出展も織り交ぜることで、川崎市の多摩川に関わる文化・芸術の拠点となっていくステップとなるだろう。



【図3-37】遺漏展示空間

出典：川崎市市民ミュージアムHP

(ウ) 回遊性の向上

市民ミュージアムと多摩川の導線は、多摩川河川敷からの徒歩、サイクリングコースからの自転車、多摩沿線道路からの自動車の3つの行き方があり、至近に位置している。しかし、現在は、散歩など多摩川を利用している人が市民ミュージアムを訪れることは少なく、また、市民ミュージアムを訪れている人の中で、側に流れる多摩川を知る人は少ない。そこで、今後、案内表示等を設置することにより、多摩川と市民ミュージアムに分散・分断している人の流れを相互交流させることが可能であり、相乗的な効果や回遊性の向上を期待することができる。



【図3-38】多摩沿線道路等々力付近1
多摩川土手より撮影



【図3-39】多摩沿線道路等々力付近2

(3) 今後の課題・展開

等々力緑地内には市民ミュージアム以外にも市営施設が複数立地しており、その一つである等々力緑地釣池についても、岐路に立っている施設の一つと考えられるため、少しふれてみる。

等々力緑地釣池は多摩川砂利採掘場跡地を利用した釣堀であり、ヘラブナ釣りのメッカで土日には多くの釣り客で賑わう。しかし、2005年5月末より水質悪化を理由に閉鎖されたが、同年12月一部水質改善がみられ、暫定的に再開された。2005年度に高濃度酸素循環機器を設置し、水質改善を図



【図3-40】等々力緑地釣池

ったが、水質の全面的改善は未だされていない。2006年度には市民や釣り愛好家、有識者が加わった検討委員会で、在り方を含め、抜本的対策を総合的に検討することになっている。釣池の設置経緯は、前述した通り、歴史的に多摩川に由来するものであり、検討委員会で多摩川との関連性を活かした提案がされることを期待する。

多摩川の流水部と釣池の直線距離は約250mと至近であり、また、中原区以北の下水処理の一部を行っている、等々力水処理センターも同様に釣池から約250mの至近の距離にある。水処理センター、多摩川及び釣池との間で、水浄化循環サイクルを構築することにより、釣池に常に清浄な多摩川の水を流入させることが可能となる。それによって、懸案となっている水質悪化の解消が期待でき、多摩川の原風景を再現できると考えられる。例えば、江川せせらぎ遊歩道

は、等々力水処理センターの処理水を再利用し、市民に親しまれる、水や緑にあふれた憩いの場と生まれ変わっている。江川せせらぎ遊歩道と等々力水処理センターの距離は約2kmであり、その距離を考えると、水処理センターに隣接する釣池との水循環は十分可能と考えられる。

市民ミュージアムや釣池以外にも、等々力の地は「拠点での展開」を考えた場合、周辺一帯としての多摩川に関する施策展開の潜在的要素が十分にあると思われる。中原区都市計画マスタープランの区民提案（図3-41参照）でも「等々力緑地と多摩川を一体化させる基盤・施設整備」など、多摩川に関連する提案がされており、地元中原区民の構想とも連携して、多摩川での施策の可能性を探ることが可能である。



【図3-41】 都市計画マスタープラン（中原区）

出典：中原区民の区民提案より

【提言7】 ニヶ領せせらぎ館 ～市民協働による環境学習のメニュー開発～

(1) 現状

①子どもたちと川との距離

多摩川がまだきれいだった頃、川は子どもたちの格好の遊び場だった。仲間と泳いだり魚をとったりしながら、子どもたちは自然の素晴らしさや恐ろしさを日常の遊びの中で学んだ。

しかし、高度成長期に身近な自然は急激に失われ、子どもたちの遊び場は公園や道端、家の中へと押し込まれるようになった。川は存在は遠いものとなり、家庭や学校では「危険な場所」「子どもだけでは行ってはいけない場所」と教えられるようになった。

いま、多摩川は年間多いときでは100万匹の鮎が遡上するほどの再生を遂げた。都市化が進む中、多摩川の緑と水の空間はあらためて貴重な存在であると見直されている。同時に、子どもの心の成長や生きる力を育むうえで、自然体験がいかに重要であるかということも、社会的に認識されてきた(57ページ、図2-6)。

しかし一方で、現在のように護岸工事等であちこちに手の入れられた多摩川で、しかも経験の浅い子どもたちが昔のように遊べるかと言えば、それは難しい。親自身も、川で遊んだことのない世代になってきた。そこで、学校や地域で川での「環境教育」や「体験学習」、「遊び」を支えていくことが重要になってくる。

この研究のなかで、私たちは中原区の丸子橋付近で行われた、上丸子小6年生の多摩川学習に参加

させていただく機会を得た。当日は、「復活！丸子の渡し」とのテーマで、NPO法人多摩川エコミュージアムや地域の方が、水質検査の支援やこの地域と多摩川の関わりの歴史についての説



【図3-42】 調布取水堰で遊ぶ子どもたち

多摩川・調布取水堰(中原区)

提供：小中嘉男(幸区古市場在住) 撮影年：1965年

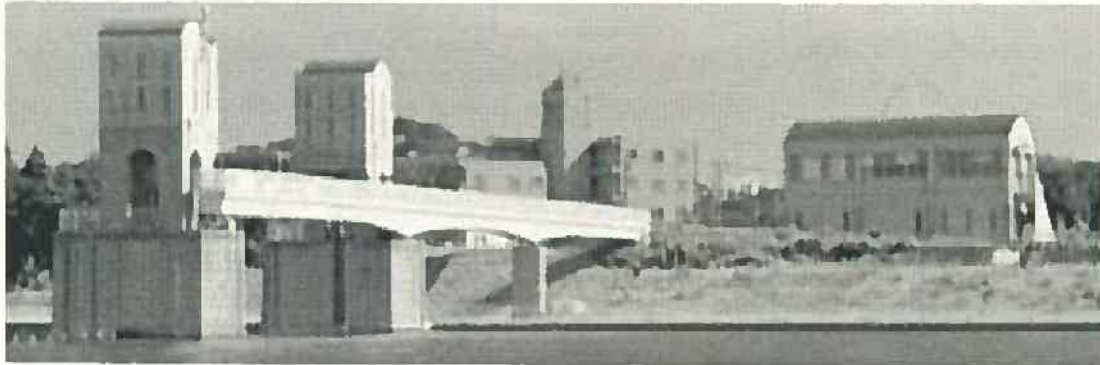


【図3-43】 上丸子小の多摩川学習「復活！丸子の渡し」

明を行い、川崎河川漁業協同組合の中原支部の方たちが実際に舟を出して子どもたちを順番に乗せてくださった。なかでも舟の体験は子どもたちにとって鮮烈な印象を残したようで、寝そべって水面を渡る風を感じたり、舟から手を出して水につけて楽しんだり、魚影を見つけたりと大はしゃぎであった。実際に川に触れてみてはじめて川に近づくことができるのだと、体験学習の大切さを実感した場面であった。

②ニヶ領せせらぎ館と多摩川学習

上丸子小のほかにも、多摩川に近い学校を中心いくつかの学校で多摩川学習が取組まれている。その拠点の一つとなっているのが、多摩区宿河原の多摩川べりに建つニヶ領せせらぎ館であり、講師等の担い手となっているのが、館を運営するNPO法人多摩川エコミュージアムをはじめとする地域の方々である。2005（平成17）年度の実績では、幼稚園から高校まで24校に対し延べ年44回の環境学習の支援が行われており（PTAや自由研究支援、夏休み水族館等も含む）、人材やノウハウの蓄積を重ねている。時には、せせらぎ館を離れて河口千潟や等々力付近の多摩川や、源流での学習を行うこともある。



【図3-44】ニヶ領せせらぎ館とニヶ領宿河原堰
提供：ニヶ領せせらぎ館NPO

せせらぎ館周囲のフィールドも、環境学習を実施しやすい環境が整っている。館そのものをはじめニヶ領宿河原堰、その脇に設けられた魚道、せせらぎ池（ワンド）、舟島稲荷の林、ニヶ領用水と、バラエティに富んだ素材が点在しており、スタッフが説明や案内をしてくれる。館内には、多摩川流域の航空写真のパネルが床一面に広がり、自分たちの目の前を流れる多摩川が、源流の森から遠く旅をしてきて海に流れていくことが実感できる。大きなモニター画面を利用して、ニヶ領用水や堰の歴史のビデオ教材などを見ることが出来る。また、年間を通じて写真や絵画、クラフトなど多摩川に関する企画展示も行われている。3月からは水槽コーナーがリニューアルされ、多摩川の上流から河口までの魚がお目見えする。



【図3-45】ニヶ領せせらぎ館周辺の地図

ニヶ領宿河原堰では、事前に連絡を取れば、普段は入れない管理橋にのぼり、堰や魚道の仕組みを上から観察することができる。「水辺の楽校」のフィールドともなるせせらぎ池ではクロメダカなどの小魚が、魚道では春にアユやマルタウグ



【図3-46】魚道
提供：多摩川施策推進担当



【図3-47】せせらぎ池
提供：多摩川施策推進担当

イの遡上が観察できる。一帯は、冬になるとユリカモメやカモ、サギ類が集まる野鳥観察のメッカであり、せせらぎ館では望遠鏡や双眼鏡の貸し出しも行っている。

なお、実際にせせらぎ館が関わった多摩川での学校を対象とした環境学習の内容は、二ヶ領せせらぎ館環境学習報告書（2005年度版）による

と、以下のとおり多岐にわたる。

- ・ せせらぎ館・堰・魚道・舟島稲荷の見学
- ・ 魚らん川・二ヶ領用水・せせらぎ池
- ・ 水質検査、水生生物観察
- ・ 多摩川の魚、野鳥
- ・ 河原の植物観察、標本作り
- ・ 河原の石の観察
- ・ 多摩川の歴史と地域の移りかわり
- ・ 地球の水の比率
- ・ 多摩川探検（多摩川を河口まで歩く）
- ・ 上・中・下流調査
- ・ 多摩川源流体験
- ・ せせらぎ館ボランティア（ゴミ拾いや館内清掃、水槽洗いなど）

これらのメニューは、担当教諭と二ヶ領せせらぎ館のスタッフでともに作り上げていったものだが、

今後も新たな人材の発掘やプログラム開発により、多様な多摩川学習の形態が期待できる。また、学校を対象とした多摩川学習以外にも、夏休み水族館（水族館・魚のタッチプール・投網見学・打ち水実験）などのイベントや、親子で参加できる「水辺の楽校」など、多摩川で遊びながら学ぶことのできる地域での多摩川学習が活発に展開されている。



【図3-48】多摩川を教えてくれたもの
～二ヶ領せせらぎ館環境学習報告書～

③川崎市の学校における多摩川学習の現状

このように、多摩川を積極的に活用した学習を行う学校や地域活動の例がある一方、大半の学校現場では、なかなか「多摩川」そのものをテーマとして取り上げにくいという実態がある。教育委員会カリキュラムセンターへのヒアリングを行った結果、その理由として、以下の二点があるようだ。

一点目は、川で実際の体験学習を行う際の、安全性の確保への不安である。確かに多摩川のような大きな川では、過去に子どもの水難事故も起こっており、学校側が懸念するのも無理はない。しかし、川に入る際にはライフジャケットの着用はもちろんのこと、上丸子小学校のように消防署に協力をしてもらったり、「水辺の楽校」などのように、専門の講習を受け実践を積



【図3-49】消防署の協力
～上丸子小学校多摩川学習にて～

んだレンジャーがついて活動している例もある。学校の授業では、保護者や地域ボランティアに協力してもらってもよいだろう。川から子どもを遠ざけることは、いざ子どもが好奇心を持って川に近づいたときに、川を知らないことでかえって危険な状況を引き起こしかねない。川の楽しさと危険を、同時にきちんと教えていくことが必要ではないか。

二点目は、多摩川をどのように学習に活用できるのかイメージがわからない、ということである。教師自身も日頃から多摩川に親しんでいたりと、子どものころ川で遊んだ体験がなければなおさらのことである。もちろん、それぞれの学校や教師、また教師の研究会等で、自主的にプログラムが研究され練られていくことが理想であるが、今の学校は様々な課題を抱えているため、それぞれの努力を待つのも難しいと思われる。

現在、国土交通省京浜河川事務所を中心に、現場の教師や市民活動団体が一緒に進める、多摩川を活用した学習プログラムの研究会が発足し、ホームページでプログラムや教材の紹介をしたり、講習会を行ったりという試みが始まっているが、こうした情報を学校現場に伝えて活用できるようにしていくことが必要である。

また、上に述べたような、安全性に関する不安への対処方法としても、実際に多摩川で学習を展開しようとするときに、どのフィールドでどんな人に協力してもらって、何を学ぶことができるのか、という具体的なメニューが提示されていれば、学校や教師は、より具体的なイメージを持ちながら、安心して多摩川を学習テーマとして選択することができるようになると思われる。



【図3-50】京浜河川事務所の多摩川環境学習支援サイト
URL <http://www.tamagawa138.net/>

(2) 提言

①既存の多摩川学習のメニューを目に見える形にする

以上のことから、様々な人材の蓄積や拠点としての可能性をもつ二ヶ領せせらぎ館を活用し、多摩川学習のメニューを目に見える活用しやすい形で学校現場に届けることを提案する。

実際のメニューの作成にあたっては、既に二ヶ領せせらぎ館等で展開されている多摩川学習のプログラムがあることから、多摩川学習に携わる市民と協働での検討チームを設け、まず既存のメニューを整理していく必要がある。また、メンバーには環境局のほかにも、教育委員会も入り、カリキュラムセンターや、現在多摩川学習に携わっている教員、理科研究会や社会科研究会等を通じて呼びかけた教師をまじえる。大学の教育や生物関係のゼミなどの学生や教授にメンバーに入ってもらうのも有効である。

検討チームでは、学習のテーマや内容、実施するのにふさわしい時期、使用する教材の内容、実際に協力をお願いできる人や団体、活用できる素材、参考文献やホームページなどを、既存のメニューを基に具体的に整理していくとともに、学習指導要領の単元や、教科書等と照合し

ながら、カリキュラムへの位置付けを行っていく。現場での体験学習を充実したものにするには、事前学習やまとめなど、前後のプロセスも大切である。また、実際に川に入る場合は、子どもへの安全教育やライフジャケットの準備、実施スタッフの確保など、安全対策や緊急時の対応についても確認し、整理しておくことが大切である。

こうした情報をまとめたものを紹介できるホームページを作成することが必要である。冊子でもよいのだが、1校に1冊程度の配布では、関心のある教師はきちんと保管するだろうが、学校に届く膨大な資料のなかで埋もれてしまうという。また、HPができたことを現場に伝える際にも、お知らせ1枚を各学校に送るだけではなく、教師の研修会や研究会をねらって説明をするなどが効果的だという。このあたりは、教育委員会との連携が不可欠になってくる。保護者の理解という点では、PTA研修会などの場所を活用して、多摩川のPRや、多摩川学習への理解を呼びかけるのも有効である。

このように、多摩川学習のメニューが目に見える活用しやすい形で学校現場に届き、その成果が蓄積されていくことで、「多摩川」をテーマに取り組む学校が増え、子どもたちのなかでふるさとの川という気持ちが育まれることを期待したい。

②新しいメニューの開発

先述した検討チームのなかでも、おのずと出てくるであろうが、既存のメニューの整理以外にも、新しいメニューの開発を行っていきたい。研究会メンバーでもいくつか考えてみたので、以下に挙げる。

(ア) 水力発電実験

環境エネルギーとして、堰の水位の高低差を利用した簡単な水力発電の実験を行う。

(イ) 継続的な調査活動

水質検査や植物観察などは既に行われているが、1回きりで終わってしまう例が多い。授業時間で難しければ、クラブ活動など継続的な調査活動を。

(ウ) 福祉の学習との組み合わせ

せせらぎ館およびせせらぎ池周辺はスロープや身障者用トイレが整備されており、バリアフリーの体験もできる。荒川では、バリアフリーの体験コースを河川敷に作り、福祉の学習に活用している事例がある。

(エ) 「匠」に教わる創作活動との組み合わせ

東京都大田区の矢口小学校では、6年生が「矢口の渡し」にちなんで地域学習を行い、卒業制作として船大工に教わりながら渡し舟づくりに取り組み、実際に水に浮かべて対岸まで渡った、という事例がある。

また、せせらぎ池の護岸は、小枝を編んで護岸を作る粗朶工法を取り入れた自然護岸になっている。

これは2005（平成17）年の夏に「かわさき水辺の楽校」の子どもたちが、大人たちと一緒に作ったもので、立派な体験学習の成果である。



【図3-51】せせらぎ池の粗朶柵づくり
提供：かわさき水辺の楽校

このような創作活動との組み合わせの学習は、成果が形となって表れるため、子どもたちの心に大きなものを残すと思われる。

(3) 今後の課題・展開

①多摩川プランへの多摩川学習の盛り込み

この提言のねらいは、二ヶ領せせらぎ館という拠点がもつポテンシャルを活かすと共に、川崎の子どもたちが、小さいころから多摩川に親しみ、多摩川をふるさとの川と思えるような学習が展開されることである。現在、川崎市では2006（平成18）年度末をめざして多摩川プランづくりが進められているが、そのなかにもぜひ学校と地域での多摩川学習の展開を具体的な形で盛り込んでほしい。特に、今回の研究のヒアリングで感じたのは、教育委員会の立場の難しさであった。地域の活動である「水辺の楽校」のチラシを校内で子どもに配ることすらも、何かあったときに学校の責任も問われるという理由で断る学校もあると聞く。子どもを預かる立場として、安全に気をつかうのは理解できるが、ではどうしたら安全に多摩川学習を行うことができるかを一緒に考えていくことが必要である。そのためにも、教育委員会も巻き込んだ形で多摩川プランへの多摩川学習の盛り込みができることが望ましい。

また、今回は、主に学校の子どもたちを対象にした多摩川本川の学習メニューについて提案を行ったが、保護者や地域の理解を高めるためにも、あわせて地域での大人向けや親子向けの学習を積極的に展開していくことも大切である。多摩川施策推進担当が窓口となり、現在行われている「水辺の楽校」や市民館で取組まれている「市民自主学級」「市民自主企画事業」の場における多摩川学習の支援を今後とも続けてほしい。

②二ヶ領せせらぎ館のPR

せせらぎ館の来館者は、2006（平成18）年3月に15万人を突破した。とくに近年は、コンサートやこいのぼり祭りなどのイベント開催により、地元にとってなくてはならない施設になりつつある。しかし一方、市全体の中での知名度はまだ充分とは言えず、様々なPRの工夫が必要である。以下、今後の展開に向けた課題を挙げる。

(ア)案内板によるPR

現在、JR南武線登戸駅周辺では、登戸土地区画整理事業や駅舎改良工事が進んでおり、多摩川をイメージした橋上駅舎、南北自由通路及びペDESTリアンデッキが併用開設され、快適で利便性の高い生活拠点が形成されつつある。また、駅から多摩川までの導線上にある市立多摩病院の新設にあわせ、歩道やバス停、横断歩道の整備が進められており、これにより登戸駅からせせらぎ館までのアクセスの改善が図られ、多摩川までの人の出入りが大きく期待できる。

今後、駅舎改良工事にあわせて、写真の生田緑地案内図のように、多摩川やせせらぎ館への行き方をわかりやすく示した案内板を設置することで、フッと駅を降り立った人でも気軽に立ち寄れるようになることを期待したい。



【図3-52】登戸駅にある生田緑地案内図

(イ) 写真展示等によるPR

案内板とあわせて、登戸新駅舎の南北自由通路に多摩川の写真を展示することにより、通りかかった人が興味を持ち、多摩川やせせらぎ館に立ち寄ることが期待できる。市立多摩病院内においても、病院の窓から見える多摩川や宿河原堰堤の景色など、多摩川をアピールする写真やプロローグ等を掲示することで、病院利用者が多摩川やせせらぎ館に立ち寄ることが期待できる。

(ウ) イベントによるPR

せせらぎ館では、すでに様々な活動が行われているが、この、拠点施設があるというのはもちろん、駅からのアクセスがよく、大人数が集まれる河川敷があるという立地を活かして、さらに地元企業や町内会と連携した活動が期待できる。平成17年に協定を結んだ「多摩区三大学連携協議会」の活用や「のぼりとゆうえん隊」などの若いパワーを活かした活動も期待したい。

たとえば、多摩川フォトコンテスト、多摩川水上ボートコンテスト、移動動物園、コンサート、お茶会、寄席、夕涼み会、虫の音を聞く会、オープンカフェ、いも煮会などが考えられる。イベントのバリエーションを増やすと共に、ホームページや広報誌、町内会・駅・スーパーの掲示板等、様々な広報媒体の活用で、あらゆる年代層が立ち寄ることが期待できる。

(エ) ライトアップによるPR

京都嵐山を流れる一級河川桂川の渡月橋では、2005年に小水力発電所が稼働し、その発電電力は照明灯用として利用されることになり、嵐山の新しい夜の観光名所として期待されている。多摩川においてもせせらぎ館周辺は堰堤を主体とした川の景色が良い上、小田急線からよく見えるため、二ヶ領宿河原堰堤の水位差を利用した小水力発電によるライトアップを行ってはどうか。ライトアップにより集客力を高め、併設しているせせらぎ館のPR効果が見込めるうえ、環境エネルギーの利用により環境にやさしい多摩川をアピールできる。導入にあたっては、新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) による中小水力発電開発費の補助事業が受けられ、経済的でもある。

資料編

多摩川流域 関連団体一覧 (1) ~川崎を拠点とした市民活動団体/NPOなど~

| | NO | 名称 | 活動内容 | 活動拠点/場所 | 設立年月日 | URL |
|---------|----|-----------------------------|--|------------------------|------------------------|---|
| 歴史 | 1 | NPO法人 川崎の海の歴史保存会 | 元漁師を中心に川崎の海苔づくりの文化を継承するために活動。20年ほど前から、市内の小中学生を対象にした、海苔づくり体験学習を実施。毎年4月に、「かわさき・のりづくり祭」を開催。 | 川崎マリエン | 2000年7月13日 (設立登記日) | |
| | 2 | かわさき・海の市民会議 | かつて豊かであった川崎の海の歴史を研究し、現状調査や催しを通してまちづくりを考える。「川崎の海の歴史保存会」が母体。 | 川崎臨海部 | 2000年7月20日 | http://homepage.nifty.com/jichiken/project/Ami/Ami.html |
| | 3 | たま・エコ・PJ | 川崎市内各地の自然、歴史、文化遺産などを再発見し、市民に紹介する。多摩川をテーマにしたモデルコースなどを作り「散策こみち」を発行。「みんなで歩こう・散策こみち」という実際にコースを歩くイベントも開催。 | 川崎市内 | 1998年6月 | |
| ニヶ領用水 | 4 | ニヶ領用水の再生を考える市民の会 | 川崎のルーツであるニヶ領用水を守り、川崎のまちづくりの中にかし、水と緑の街をつくることをめざす。 | 総合自治会館 | 1982年3月1日 | |
| | 5 | ニヶ領用水・中原桃の会 | ニヶ領用水沿いに、桃や桜600株を植樹し、維持管理を行う。毎年、春彼岸前日曜日に「中原桃まつり」を開催。 | ニヶ領用水/中原区 | 1987年1月 | |
| | 6 | ニヶ領用水ウォッチング・フォーラム | 2002 (H14) 年度の「すくらむ21」市民講師活動「ニヶ領用水のこともっと知りた、学びたい!」をもとに設立。市民の立場からニヶ領用水を観察し、人と自然が共存していける水辺環境を考える。清掃活動や自主講座(高津、多摩、幸)を開催。 | ニヶ領せせらぎ館/ ニヶ領用水 | 2003年4月26日 | http://home.caiy.ne.jp/dt/1-saka/nika-watching.htm |
| | 7 | 高津区まちづくり協議会 水辺の風景部会 | まちづくりビジョン「歩きたくなる高津」では、「水辺のネットワークを再生する」など水辺に関するビジョンとアクションを提案。これらの実現に向け、水辺の風景部会が発足。「ニヶ領用水おそうじプロジェクト」など実施。また、有志で多摩川二子橋周辺の清掃を行う。 | ニヶ領用水/多摩川 二子橋周辺 | 2004年7月6日 | http://www.city.kawasaki.jp/07/kasai/home/kumio/kyoutokuai/kyoutokuai-top.htm |
| | 8 | かわさき水辺の楽校 | 毎月1回、ニヶ領せせらぎ館を拠点に、魚釣り名人の師匠が、多摩川での遊びや自然の中で生きる技を子どもたちに伝授。 | ニヶ領せせらぎ館周 辺/源流 | 2001年7月 (楽校設立) | http://www.sesetagikan.com |
| | 9 | とどろき水辺の楽校 | 毎月1回、「源流から河口・海まで遊び尽くす!」「遊びから見える環境を!」を大きなテーマに活動。幅広い世代が集まり、過去4年間の参加者は述べ5,000人。 | 等々力緑地先多摩川 河口敷/多摩川流域 | 2002年4月 (楽校設立) | http://www(0).wdp.s-net.ne.jp/motoori/izumi/ |
| | 10 | TOMMORI KIDS ADVENTURE CLUB | 飛森谷戸の自然を守る会で、KIDSを対象に「森遊び」として木登りや川遊び、自然観察会を四季(4Seasons)に合わせ行う。 | 飛森谷戸 | 2003年 | |
| 子ども | 11 | いなだ子どものふるさと会 | 2004 (H16) 年度の多摩市民館事業「中野島遊び場マップ」作成の参加者を中心に会を発足。2005年度多摩市民館市民自主企画事業では、「多摩川遊学講座」や「ニヶ領用水たんけん隊!」を実施。 | 多摩区 | 2005年 | |
| | 12 | 宿河原桜堤保存会 | 宿河原町会と連携し、ニヶ領用水宿河原線の清掃活動や、毎年お盆の時期に「灯ろう流し」などを行う。 | ニヶ領用水宿河原線 | 1973年 | |
| | 13 | 多摩川さくらの会 | 等々力土手の一里塚に桜を植樹するため募金活動を行う。 | ニヶ領せせらぎ館 | 1999年2月 | |
| 桜 | 14 | 多摩川等々力土手のさくらを愛する会 | 等々力土手の一里塚付近に植樹された桜の維持管理や植樹、また地域の小学校と連携して植樹など行う。 | 多摩川等々力土手 | 2001年 | |
| | 15 | NPO法人 かわさき自然調査団 | 1982年に青少年科学館が博物館登録したことを受け、1983年の川崎市自然環境調査を実施するために公募した市民ボランティアの活動が発足。専門家の指導で研鑽を重ね、川崎市青少年科学館と連携し社会教育に貢献。大師河原で鳥の調査なども。 | 川崎市青少年科学館/ 生田緑地ほか | 2003年11月26日 (設立登記日) | http://imae.n03.its.com.net/nature23 |
| 自然調査/観察 | 16 | 多摩川と語る会 | 川崎側河口より、2ヶ月に1回の割合に5~10kmを、できるだけ水際に沿って歩き源流を目指す。3回踏破。自然観察を主体とし、見学会や学習会なども実施。 | 多摩川河口~源流 | 1993年8月 | |
| 魚 | 17 | 川崎河川漁業協同組合 | ガス橋より上流の第5種共同漁業権(魚)漁業権、河口部の第1種共同漁業権(貝や藻類)を持つ。多摩川クラブなど市民団体と連携し各種イベントを実施。 | 多摩川(川崎市) | 1952年4月4日 | |

| № | 名称 | 活動内容 | 活動拠点/場所 | 設立年月日 | URL |
|--------|----------------------|--|------------------------|-----------------------|---|
| 魚 | 18 多摩川クラブ | 多摩川に棲む生き物を観察することで、多摩川の再生を見つめる。また、「多摩川マルタ祭り」や「紙芝居live」など、多摩川の楽しさを伝えるイベントなどを実施。 | 多摩川 | 1990年 | http://www.ktsn.net/Anser/unanunant02/ |
| | 19 飛森谷戸の自然を守る会 | 川崎国際生田緑地ゴルフ場に隣接する雑木林(神社跡地)を中心に下草刈りや植樹を行い、里山の再生維持活動を毎月第2日曜日に行っている。整備された場所を利用したコミュニケーションとして「森の音楽会」を春秋に開催。 | 飛森谷戸 | 1996年3月24日 | |
| | 20 鼠が丘地域の会 | 地元有志が集まり、荒れた緑地を整備。「こどもの森」を作り、管理運営する。 | 昔北浦緑地 | 2000年 | |
| | 21 川崎市市民健康の森交流会 | 市内7区で活動する市民健康の森の団体が、1年1回、各活動の報告や交流を深めるために発足。各区もちまわりで事務局を担当。 | 各区(年毎) | 2002年 | |
| | 22 多摩川美化活動 | 子どもたちを中心に多くの市民が参加して、母なる川、多摩川を「きれいに よごさない」「親しまれる川」をスローガンに、川崎市一斉に清掃活動を行う。毎年、6月の第一日曜日に開催。2005(1117)年度は、154団体、15,300人が参加し、約13.8tを収集。 | 多摩川原橋～大師橋 下流の堤防/河川敷 | 1979年 | |
| 清掃 | 23 多摩川遊クラブ | 2000(1112)年の大水の際、河口部にたまった流出物の清掃を自主的に行う。 | 多摩川殿町干潟周辺 | 2000年 | |
| | 24 アイコネクションズ | マラソン中の学生が、清掃活動を始めたのがきっかけ。清掃活動を行う。 | 多摩川多摩水溜橋周辺 | 2001年 | |
| | 25 多摩川河川敷自主管理運営委員会 | 大師東部六町内会連絡協議会に所属する多摩川河川敷自主管理運営委員会に対し、殿町及び大師河川敷自由広場の管理運営を任せる。多摩川緑地の利用活性化と管理水準の向上が目的。 | 殿町/大師河川敷自由広場 | 2004年4月 | |
| スポーツ | 26 多摩川クラブ | 戦後まもなく「みんなの体力・精神力づくりに役立つ」と創立。多摩川ガス橋から新幹線の鉄橋を折り返すコースをマラソンする。東京国際マラソン大会など大会の運営も手伝う。 | 多摩川ウォーキングコース/サイクリングコース | 1948年4月1日 | http://www2.adn.ne.jp/amagawaclub/ |
| | 27 慈徳乃会 | 多摩川近辺の酒屋が有志で集まり、多摩川への大いなる感謝と太古から続く清流を感念し、多摩川流域の環境美化に少しでも役に立てれば結成。売上の一部を多摩川エコミュージアムへ。 | 川崎市有志酒屋 | 2001年 | http://www3.biglobe.ne.jp/~zindek/index.htm |
| まちづくり等 | 29 川崎のまち資源を考える会 | 2001年12月に行われた「KAWASAKI ART CAMP 川崎の場所と変遷」展の開催企画を契機に、その活動に協賛する市民によって設立。その後、多摩川やニヶ領用水にフォーカスした展覧会を開催。失われたまちの記憶や残された資源を手がかりに、まちを未来に向けて紡ぎ直すきっかけを模索する。明治大学建築学科の生徒とともに活動。 | 川崎市内 | 2001年3月1日 | http://members.at1.nfocnet.co.jp/machishiken/ |
| | 28 平瀬川流域まちづくり協議会 | うるおいのあるまちづくりと地域のコミュニティづくり「喜前区のガーデン区構想」を推進するために、住民による自主的な地域活動を盛り立てることをめざす。平瀬川の景観づくりや、竹炭を使い平瀬川の浄化実験を行うなど環境保全の活動を実施。「七夕サミット」も年中行事として定着。 | 平瀬川流域 | 1993年9月 | |
| | 30 NPO法人 多摩川エコミュージアム | 1994年に開催された川崎市市制70周年記念事業の提言を出発点に、多摩川エコミュージアム構想/プランを市民、行政、企業のパートナーシップで策定。多摩川エコミュージアムプラン推進のために組織された推進委員会が前身。川崎市より「ニヶ領せせらぎ館」の管理・運営、及び多摩川エコミュージアム推進事業を委託されている。 | ニヶ領せせらぎ館/ 多摩川流域 | 2002年6月10日 (設立登記日) | http://www.seseragi.kan.com |
| 鶴見川流域 | 31 麻生水辺の会 | 雑木林の保全や水質保全や清掃活動を行う。鶴見川流域ネットワーク(TRネット)に参加。 | 片平川/麻生川(3か) | 1995年5月 | |
| | 32 矢上川で遊ぶ会 | 矢上川の流域文化を再発見し矢上川の環境整備とよりよい川づくりをめざして、毎月第4土曜日に活動。自然観察会、クリーンアップ、探鳥会、川歩きなど開催。TRネットに参加。 | 矢上川下流域 | 1996年4月 | http://web-k.jp/yasumi-awa/ |

■「多摩川」「多摩川エコミュージアムプラン」「ニヶ領用水」「多摩川流域」をキーワードに、多摩川施設推進担当やかわさき市民活動センターなどの情報や各団体の資料/ホームページをもとに作成。また、この一覧は発行段階のもので、内容等、不備な点ございましたら、ご連絡いただければ幸いです。また、「この団体が入っていない」などご指摘も、あわせてよろしくお願ひします。

多摩川流域 関連団体一覧(2) ~流域における市民活動団体/NPOなど~

| № | 名称 | 活動内容 | 設立年月日 | URL |
|----|----------------|---|-----------------------|---|
| 1 | 多摩川流域ネットワーク | 「多摩川大好き人間集まれ!」の呼びかけのもと発足。多摩川懇談会への代表の参加や、行政と協働して多摩川流域セミナーを開催。また現地見学の開催や「TBネット通信」を発行。 | 2004年6月 | |
| 2 | 多摩川源流研究所 | 山梨県塩山市、小菅村、丹波山村と東京都奥多摩町にまたがる多摩川源流域を総合的に調査研究し、情報発信をしている。その他、村おこしの役割も担う。「源流の四季」を発行。 | 2001年4月8日 | http://www.tamagawa-senryu.net |
| 3 | 多摩川源流観察会 | 体験ツアーや写真展の開催など源流と直接触れ合う機会を提供。 | 1994年 | |
| 4 | 福生水辺の楽校 | 「多摩川で遊ぼう!」を合言葉に、毎月1回活動。川の中で泳いだり、魚や昆虫を捕まえたり、季節に合わせて思いっきり多摩川を楽しんでいる。 | - | |
| 5 | あきしま水辺の楽校 | 子どもたちが自然体験の中で、健全な成長を遂げ、自然や環境に対する理解を深める場所となることをめざして活動。毎月第三土曜日は、清掃活動・植生管理などの維持活動も行っている。 | 2003年5月 (推進協議会設立) | http://www7a.biglobe.ne.jp/~akishima-nishibe/index.html |
| 6 | 滝台水辺の楽校 | 滝台小学校の「学びの場」として活用。2002(旧14)年度の卒業生が6年生の時に、「浅川を遊べる川に」という願いのもと申請。その思いを毎年6年生が引き継いで学習している。念願のワンドも完成。 | 2004年10月 (楽校設立) | http://www.city.hinokawa.tokyo.lg.jp/school/takidai/index.htm |
| 7 | 浅川潤徳水辺の楽校 | 多摩川の支流、浅川を舞台に活動。昔のような自然豊かな環境に近づけ、そこで子どもたちが遊びまくることができる自然体験の場を目指す。 | 2004年10月 (推進協議会設立) | |
| 8 | 府中水辺の楽校 | 2006年度の開校をめざして準備中。多摩川や農業用水路を活用した府中らしい楽校を目指す。 | 2005年2月 (推進協議会設立) | |
| 9 | いなぎ水辺の楽校 | 稲城第六小学校の近くで、「子どもたちが多摩川を通じて自然に学び遊べる楽しい学校」を目指して、現在準備中。 | - | |
| 10 | 粕江水辺の楽校 | 親子参加の自然再生事業を中心に、月2回のペースで活動。年間2,000人余りの自然教室や総合学習をお手伝い。 | 2001年1月 | http://www13.plala.or.jp/RUMAE-WIZURE/index.html |
| 11 | せたがや水辺の楽校 | イベント活動よりも、原っぱ感覚で遊び学ぶ自然豊かな水辺の草地进行とし、子どもの日常に着目した地域とのふれあいネットワーク形成、とくに小さい子どもから大人までの異世代交流を目標としている。2006年度開校予定。 | 2005年6月 (推進協議会設立) | |
| 12 | 多摩川の自然を守る会 | 多摩川水源から河口までの自然を守り、また望ましい利用のしかたを考えるための活動を行うことを目的。多摩川の自然保護活動の草分け的な存在。1970年の設立時より自然観察会を実施。 | 1970年2月8日 | http://homepage2.nifty.com/tamagawa/index.html |
| 13 | 多摩川の源流を訪ねる会 | 多摩川の全体像を知り、クリーンな川にすることを目的に活動。世田谷と川崎の市民を中心に構成され、紅葉の時期に多摩川源流部を訪れ、小菅村との交流や、笠取山山頂(水干)登山を行う。 | - | |
| 14 | 多摩川癒しの会 | 障害者用河川敷水洗トイレ設置時に兵庫島で開催された集いが契機。多摩川の癒し効果を、「障害者」・「健常者」がモニターとなって、散歩、釣、バードウォッチングなど多様な実体験を行い検証。川遊びのイベントを年5~8回開催。また、河川空間にふさわしい車椅子などの移動器具の開発や、河川空間の整備方法などについて検討。 | 1998年5月27日 | http://home.n03.itn.com.net/iyushi |
| 15 | ラブリバー多摩川を愛する会 | 東京青年会議所が1972年に多摩川の環境浄化運動を提唱し、翌年、ニッポン放送の「オールナイトニッポン」で1年間のキャンペーンを展開。玉川高島屋の協力で市民グループとして発足した。また、「とうきょう環境浄化財団」の設立に協力。多摩川の清掃活動だけでなく、最近では多摩川の写真展なども開催している。 | 1975年3月 | http://www.loveriver.no.jp |
| 16 | 多摩川四ヶ瀬用水400年の会 | 四ヶ瀬用水着工400周年を記念して、多摩川と流域の水辺環境を考えるために設立。多摩川市民アクションを後援。 | 1997年11月1日 | http://www.b-flux.com/tamagawak400 |
| 17 | 多摩川を飲める水にする会 | 東京都水道局が多摩川の水質悪化により田園調布堰で取水を停止してから21年後の同日に発足。多摩川流域の様々な調査を行い、流域住民相互の交流を図りながら、多摩川の保全、水質改善、多摩川を飲める水にするためのプランを作成し提案していくことが目的。毎年、「多摩川クリーン&ウォッチング」を開催し、河川敷のゴミ回収と水質調査、浄水場や下水処理場の見学・学習会を行っている。 | 1991年9月28日 | |

| NO | 名称 | 活動内容 | 設立年月日 | URL |
|----|--------------------------|--|-----------------------|---|
| 18 | 多摩川・リバーシップの会 | 「五感でふれる多摩川実行委員会」により主催された「川くだり」を契機に活動を開始。多摩川をフィールドに定例の「川くだり」や、武蔵工大の学生を中心に牛杣等をつくり、河川伝統工法の復活を試みる。また、全国の水辺イベントのサポートも積極的に行う。 | 1998年5月28日 | http://b-flaz.com/river-ship |
| 19 | 世田谷アドベンチャークラブ | 子どもたちが自然に触れるきっかけを作り、「自然は楽しくて、おいしくて、怖いんだ」という自然環境の大切さを知り学んで欲しいとの思いから設立。多摩川親子カヌー教室やサイクリングなど自然体験活動を行う。 | - | http://www.b-flaz.com/river-ship/SACnews/index.html |
| 20 | 多摩川でボートを楽しむ会 | ボートを愛し、多摩川を愛し、生涯スポーツとしてボートを楽しむことを目的に、ガス橋付近を中心に初心者ボート教室、経験者のボートを漕ぐ会を毎月開催。荒川、鷺見川など近郊で行われる市民レガッタ等にも参加。 | 2002年3月 | http://www.5b.birdob.e-nz.jp/77Ekanin/tanagawa_boat.html |
| 21 | 日本野鳥の会神奈川支部 | (財)日本野鳥の会の支部。各支部は任意団体として運営。15年以上にわたり鳥類目録作りに取り組み。また保護活動や講演会の実施、会報の発行等を行う。 | 1952年6月 | http://www.smp.or.jp/wbsj-k/ |
| 22 | 日本野鳥の会東京支部 | (財)日本野鳥の会の支部。各支部は任意団体として運営。野鳥観察会の実施や越冬野鳥調査、野鳥販売の実態調査など行う。 | - | http://homepage2.nifty.com/tokyo-birders/ |
| 23 | 「川の日」ワークショップ実行委員会 | 7月7日の「川の日」を記念した市民実行委員会主催の公開講座方式のワークショップ。毎回、全国から70件ほどの「これぞ“いい川” “いい川づくり”」という応募があり、地域の水辺を愛し、育み、取り組む400～500人が一堂に会する催しとなっている。 | 1998年 | http://www.mizukan.or.jp/kawanchi/kawanohi.htm |
| 24 | NGO ATT(荒川・多摩川・利根川)流域研究所 | 荒川・多摩川・利根川・東京湾などの水圏を中心に調査・研究を進め、流域管理・都市問題・地球環境をめぐる課題に各種提言をし得る活動を目指す環境NGO。研究活動、及び全国各地へのエコツアーやミニサロン等実施。 | 1993年 | http://att.travel-way.net/ |
| 25 | NPO法人 多摩川センター | 多摩東京移管100周年記念事業「TAMAらいふ21」で行われたテーマプログラム、多摩川の復権を担った多摩川研究会が発端となり、任意団体として1994年にスタート。川に関わる活動を行う人材育成講座や情報誌の発行、多摩川ふれあい教室運営等を行う。 | 2000年1月 (NPO法人化) | http://www2.ttcn.ne.jp/~tamagawa/ |
| 26 | NPO法人 全国水環境交流会 | 健全な水循環を保全、回復するためには、さまざまな立場や意見の持ち主が自由に交流するコミュニケーションの場づくりが重要との認識のもと、緩やかな全国ネットワークとして、川や水に関わる市民団体に呼びかけ1993年に設立。全国を10ブロックに分け、「川の日ワークショップ」やシンポジウム、源流シンポジウム、全国大会などを呼びかける。 | 2003年10月 (NPO法人化) | http://www.uwukan.or.jp/ |
| 27 | NPO法人 森づくりフォーラム | 東京都内で活動する森林ボランティア団体、森林所有者、行政関係者が「森とともに暮らす社会」を目指して「森林(もり)づくりフォーラム実行委員会」を1993年9月に結成。多摩川水源地の森林砂漠化対策等に取り組む。 | 2000年1月4日 (NPO法人化) | http://www.auridoku.rj.jp/ |
| 28 | NPO法人 海辺づくり研究会 | 1999年より有志が集まり、沿岸域の環境問題について様々な側面から研究や情報などの交流を行う。2001年、さらに新しい沿岸域の自然環境を創造していくことをめざし、産官学民を問わず幅広く同志を募り「海づくり研究会」を設立。多摩川河口干潟におけるトビハゼの生息環境に関する調査研究や、アマモリバイバルプロジェクト等を行う。 | 2002年 (NPO法人化) | http://homepage2.nifty.com/umibekei/ |
| 29 | 漁業協同組合 | 秋川漁業協同組合 奥多摩漁業協同組合 小河内漁業協同組合 愚方漁業協同組合 多摩川漁業協同組合 氷川漁業協同組合 東京都鮎鱒養殖漁業協同組合 大田漁業協同組合 大田区五ヶ浦漁業組合連合会 | - | - |

■「多摩川」をキーワードに、多摩川漁業推進担当などの情報や各団体の資料/ホームページをもとに作成。また、この一覧は試行段階のもので、内容等、不備な点ございましたら、ご連絡いただければ幸いです。また、「この団体が入ってない！」などご指摘も、あわせてよろしくお願いします。

多摩川流域 関連団体一覧(3) ～流域における自治体関連の委員会など～

| NO | 名称 | 活動内容 | 設立年月日 | URL |
|----|-----------------|---|----------|---|
| 1 | 多摩川流域協議会 | 1986年の「多摩川サミット」(建設大臣、東京都・神奈川県知事、流域自治体各市長参加)で採択された「多摩川を水と緑で親しめる清流に復活させ、次代に継承するため流域が一体となって取り組もう」という宣言を推進するために発足。「水環境部会」「水と緑のネットワーク部会」「多摩川流域リバーミュージアム部会」「行政連絡部会」を内部に持ち、河川管理の意見交換や情報連絡を行う。 | 1987年2月 | http://www.keihin.ktr.mlit.go.jp/tama/walk/waterside/data/i/index.htm#data1 |
| 2 | 多摩川流域懇談会 | 1996年に京浜工事事務所主催で開催された流域交流懇談会での提言「川づくり・流域づくりにかかわる市民、企業、自治体、河川管理者のパートナーシップの構築が必要」を受け設立。流域自治体、河川管理者、市民、企業、学識経験者が「いい川・いいまちづくり」の実現に向けて継続的に情報や意見の交換を行い、緩やかな合意形成を図る場。「多摩川流域セミナー」等を開催。 | 1998年12月 | http://www.keihin.ktr.mlit.go.jp/tama/project/conference/index.htm |
| 3 | 多摩川流域委員会 | 「多摩川流域懇談会」が目的とする「穏やかな合意形成」に対し専門的見地から議論し、「いい川」「いいまち」を具体化するため設立。河川管理者や構成委員の要請により、助言、意見を述べる。 | 1999年 | http://www.keihin.ktr.mlit.go.jp/tama/walk/waterside/data/i/index.htm#data1 |
| 4 | 関東地方水質汚濁対策連絡協議会 | 昭和30年代以降の著しい産業の発展と都市への人口集中に伴い、各地で水質汚濁問題が発生。水質に関して建設者と都県との連絡を密にするため設立。1970年(昭和45)には、関東一円を対象とする「関東水質汚濁対策連絡協議会」へと組織を拡張。水質/汚濁対策の調査/解析、および講習会等の開催など行う。 | 1958年 | http://www.keihin.ktr.mlit.go.jp/tama/walk/waterside/data/i/index.htm#data1 |
| 5 | 多摩川水系利水関係者連絡会 | 近年の小雨化傾向やダム等の水資源開発の遅れなどにより、各地で水利安全度の低下が見られ、頻繁に洪水にみまわれるようになってきた。特に1994(H6)年度は全国各地で異常洪水が発生し、対策が強く求められ、これを踏まえ、1997(H9)年の河川法の改正。河川管理者及び利水者との間において、情報及び意見交換を行う場として設立。 | 1997年 | http://www.keihin.ktr.mlit.go.jp/tama/walk/waterside/data/i/index.htm#data1 |
| 6 | 多摩川水難事故等防止協議会 | 1999(H11)年度に約30件の水難事故が発生。またホームレスの数が関東の水系では最も多く、ホームレス小屋も橋脚の下から川岸に近い箇所に設置され、水難事故の可能性が心配されている。京浜河川事務所、各自治体・橋梁管理者等と、警察・消防が連携を図り、多摩川全域において水難事故防止活動を重点に協議を行う会を設立。日常の水難事故防止、ホームレスに対する水難事故への危機管理の啓蒙活動、河川監視員の指導・育成や市民活動団体に対する支援について検討する。 | 2000年 | http://www.keihin.ktr.mlit.go.jp/tama/walk/waterside/data/i/index.htm#data1 |
| 7 | 多摩川沿川整備協議会 | 高規格堤防整備と市街地整備等の一体的事業を推進するために設ける。 | - | - |

■ 「水辺を歩こう 多摩川」水く・遊ぶ・学ぶハンドブック2004(京浜河川事務所発行)等をもとに作成。

2005(平成17)年度 政策課題研究チーム作成

多摩川流域 関連団体一覧(4) ~河川にかかわる財団/社団~

| NO | 名称 | 活動内容 | 設立年月日 | URL |
|----|-------------------|--|------------|---|
| 1 | (財) 河川環境管理財団 | 河川環境の整備と保全、水環境の保全、維持管理等に関する総合的な調査・研究、河川環境教育の推進、河川愛護思想の普及・啓発、河川敷の公園・緑地・運動施設などの整備・運営・管理、河川の美化・緑化の推進等を行う。「子どもの水辺サポートセンター」を運営。 | 1975年9月1日 | http://www.kanen.or.jp/index.asp |
| 2 | 子どもの水辺サポートセンター | 文部省、建設省、環境庁(当時)の「『子どもの水辺』再発見プロジェクト」において、2002(III4)年度に(財)河川環境管理財団の中に設置された。「子どもの水辺」を活用した団体への情報発信や機材貸出などの支援とサポート、講習会などを行う。 | 2002年 | http://www.mimbe-support-center.org |
| 3 | (財) リバーフロント整備センター | 水辺空間のあり方、水辺空間の保全と利用、水辺空間の整備等水辺空間に関する技術開発及び調査研究を総合的に実施し、かつ、その成果を幅広く活用して、安全で豊かな潤いのある国土建設に資する。 | 1987年9月1日 | http://www.rfc.or.jp |
| 4 | (財) 河川情報センター | 洪水・土砂災害などの非常時に、河川管理者が持つ河川・流域に関する情報を迅速・確実に防災関係機関や国民に提供するためのシステム整備全般。 | 1985年10月1日 | http://www.river.or.jp |
| 5 | (財) 国土技術研究センター | 建設技術の研究開発を行う。国土技術開発賞の表彰や研究開発の助成、住宅・社会資本整備に係る総合的、先行的な課題を対象とした自主研究を実施。国からの受託調査において、水循環健全化に向けての総合施策の研究を行う。 | 1973年6月30日 | http://www.jice.or.jp/index.htm |
| 6 | (財) とうきゅう環境浄化財団 | 多摩川沿線で発展してきた東急電鉄グループが昭和47年に50周年を迎えたのを機に多摩川流域における環境浄化保全に関する調査、研究や助成を行う。年1回研究報告書発行。 | 1974年6月28日 | http://home.n07.tis.com.net/tokyuenv |
| 7 | (社) 日本河川協会 | 河川に関する情報の交流・知識の普及、および河川の整備、民間の河川愛護活動などの支援を行う。ホームページ「JAPAN RIVER」では、川や水の活動団体名簿(約2,800団体登録)や日本河川欄などを提供している。日本水大賞を開催。 | 1940年 | http://www.japanriver.or.jp |

■ 各ホームページ等をもとに作成。

2005(平成17)年度 政策課題研究チーム作成

川崎市 緑の活動団体一覧(1) ~地域緑化~

| NO | 名称 | 活動内容 | 活動場所 | 団体種類/備考 |
|----|---------------------|------|---|---------|
| 1 | 田島町町内会 | 地域緑化 | 川崎区 田島ふれあい公園 | 町内会・自治会 |
| 2 | 旧町2・3丁目町内会 | 地域緑化 | 川崎区 旧町2・3丁目遊歩道、小島新田駅、構内周辺 | 町内会・自治会 |
| 3 | 池田町内会 | 地域緑化 | 川崎区 池田町児童公園、池田町三角公園 | 町内会・自治会 |
| 4 | 下並木緑愛護会 | 地域緑化 | 川崎区 公園、八丁駅周辺 | 町内会・自治会 |
| 5 | 伊勢町町内会環境部第1部会 | 地域緑化 | 川崎区 伊勢町第一児童公園 | 町内会・自治会 |
| 6 | 伊勢町町内会環境部第2部会 | 地域緑化 | 川崎区 伊勢町第二児童公園 | 町内会・自治会 |
| 7 | 小田4丁目町内会 | 地域緑化 | 川崎区 小田小学校西側正門歩道フラワーポット | 町内会・自治会 |
| 8 | 浅田三、四丁目町内会 | 地域緑化 | 川崎区 町内一円 | 町内会・自治会 |
| 9 | 藤崎町内会環境美化部 | 地域緑化 | 川崎区 藤崎第2児童公園 | 町内会・自治会 |
| 10 | 大島2丁目緑化推進委員会 | 地域緑化 | 川崎区 大島第4公園、大島2丁目内 | 町内会・自治会 |
| 11 | 浅田1・2丁目町内会 | 地域緑化 | 川崎区 浅田1・2丁目内 | 町内会・自治会 |
| 12 | リジェンヌ京町自治会 | 地域緑化 | 川崎区 緑道、公園 | 町内会・自治会 |
| 13 | グリーンクラブ | 地域緑化 | 川崎区 マンション敷地内の公園緑地 | 町内会・自治会 |
| 14 | 小田中央町内会 | 地域緑化 | 川崎区 小田4-6、南小田公園内外、小田中央町内会館付近 | 町内会・自治会 |
| 15 | 花と緑の会 | 地域緑化 | 川崎区 マンション内 | サークル |
| 16 | 川中島中学校区地域教育会議 | 地域緑化 | 川崎区 川中島小学校、川中島中学校、藤崎小学校校庭 | サークル |
| 17 | 富士見タンク広場グリーンスコップ | 地域緑化 | 川崎区 富士見球場タンク広場 | サークル |
| 18 | サンスクエア川崎自治会 | 地域緑化 | 川崎区 サンスクエア川崎団地内 | 町内会・自治会 |
| 19 | 桜本1 グリーンサークル | 地域緑化 | 川崎区 桜本小学校 | 町内会・自治会 |
| 20 | 大島商興会 つつじの里親の会 | 地域緑化 | 川崎区 新川通り サブキ橋から道分間の花壇 | 商店会 |
| 21 | 真海緑のネット「緑拓」 | 地域緑化 | 川崎区 千鳥公園周辺、国道132号線(産業道路より東側)の歩道緑地帯の緑化促進 | サークル |
| 22 | 鋼管通商栄会 | 地域緑化 | 川崎区 商店街 | 商店会 |
| 23 | 大島3丁目町内会 | 地域緑化 | 川崎区 大島第3公園、八幡神社境内 | 町内会・自治会 |
| 24 | 川崎区旭港町内会 | 地域緑化 | 川崎区 港町公園及び旭町児童公園、旭港町内会館 | 町内会・自治会 |
| 25 | フローラかわさき | 地域緑化 | 川崎区 JR川崎駅前東口広場 | サークル |
| 26 | 観音町花と緑を愛する会 | 地域緑化 | 川崎区 観音児童公園ほか | サークル |
| 27 | 大師第4地区社会福祉協議会 | 地域緑化 | 川崎区 大師老人いこいの家 | サークル |
| 28 | 小田公園花壇づくりの会 | 地域緑化 | 川崎区 小田公園 | サークル |
| 29 | 桜川公園愛護会 | 地域緑化 | 川崎区 桜川公園 | サークル |
| 30 | 殿町第一公園緑愛護会 | 地域緑化 | 川崎区 殿町第一公園 | サークル |
| 31 | 日進町婦人会 | 地域緑化 | 川崎区 上並木公園、花壇管理、周辺道路等の清掃・草取り | 町内会・自治会 |
| 32 | マテバシイの会 | 地域緑化 | 川崎区 池上第町 冥加公園の一部 | サークル |
| 33 | 川崎区大島5丁目老人クラブ友美会 | 地域緑化 | 川崎区 川崎区鈴木町1番地先(ワイルドフラワー花壇内) | サークル |
| 34 | 浜町3丁目町内会 | 地域緑化 | 川崎区 桜本1丁目2-25 桜川緑地公園 | 町内会・自治会 |
| 35 | ピエトープレM10 | 地域緑化 | 川崎区 神奈川県川崎市川崎区貝塚1-4-15 ライオンズマンション第10 | 町内会・自治会 |
| 36 | 桜川会 | 地域緑化 | 川崎区 桜川公園 | サークル |
| 37 | 緑の美化運動 | 地域緑化 | 川崎区 東町中学校の裏、公園で花壇手入れ・草刈 | サークル |
| 38 | 川崎水曜パトロールの会掃除隊 | 地域緑化 | 川崎区 川崎区内 | サークル |
| 39 | 花を愛する友の会 | 地域緑化 | 川崎区 川崎区鈴木町1(鈴木町第3広場) | サークル |
| 40 | 南幸町3丁目町内会 | 地域緑化 | 幸区 南幸町内会全域、プランター | 町内会・自治会 |
| 41 | 小向仲野町学生会 | 地域緑化 | 幸区 小向第一公園 | 町内会・自治会 |
| 42 | やすらぎの道神明会 | 地域緑化 | 幸区 幸区神明町2-52番地先 さいわい緑道の一部 | 町内会・自治会 |
| 43 | 塚越一丁目なつみ会 | 地域緑化 | 幸区 町田緑地 | サークル |
| 44 | 川崎南河原銀座協同組合 | 地域緑化 | 幸区 商店街歩道上 | 商店会 |
| 45 | みのり幼稚園 | 地域緑化 | 幸区 みのり幼稚園 | 学校 |
| 46 | パークシティ新川崎グリーンクラブ | 地域緑化 | 幸区 マンション周辺に株状に広がった樹木 | 町内会・自治会 |
| 47 | 夢ひろば友の会 | 地域緑化 | 幸区 さいわい夢ひろば(幸区小倉字厩村308-5他) | サークル |
| 48 | 南幸町1丁目都町町内会 | 地域緑化 | 幸区 南幸町1丁目都町町内一円 | 町内会・自治会 |
| 49 | 戸手本町2丁目町内会ガーデニングクラブ | 地域緑化 | 幸区 戸手本町2丁目町内 | 町内会・自治会 |
| 50 | 戸手町内会 | 地域緑化 | 幸区 戸手町公園、戸手東公園 | 町内会・自治会 |
| 51 | 川崎ハイライズ管理組合 | 地域緑化 | 幸区 はなの木公園 自主管理花壇、マンション西自主管理遊歩道花壇他 | 町内会・自治会 |
| 52 | ウインベル川崎管理組合 | 地域緑化 | 幸区 「りんごの木」提供公園、マンション周り緑地公園 | 町内会・自治会 |
| 53 | 小倉わんぱく広場管理グループ | 地域緑化 | 幸区 小倉わんぱく広場(新川崎創造のもり暫定緑化地) | サークル |
| 54 | 鹿島田駅前花壇クラブ | 地域緑化 | 幸区 JR南武鹿島田駅西地区に新設された駅前花壇 | 商店会 |

| NO | 名称 | 活動内容 | 活動場所 | 団体種類/備考 |
|-----|---------------------|------|--|---------|
| 55 | K B I C・ガーデンさいわい | 地域緑化 | 幸区 新鶴見橋車場跡地の「かわさき新産業創造センター」敷地内の緑地の花壇 | サークル |
| 56 | M R T | 地域緑化 | 幸区 幸区土手(水上バス川崎発着場) | サークル |
| 57 | 緑道花クラブ | 地域緑化 | 幸区 南河原こども文化センター裏側 幸緑道の一部 | サークル |
| 58 | 川崎市幸区子ども会連合会 | 地域緑化 | 幸区 河原町緑地 | サークル |
| 59 | 子育て広場ふるいちば園芸サークル | 地域緑化 | 幸区 子育て広場ふるいちば内(幸区古市場1-1) | サークル |
| 60 | シャルマン南加瀬園芸クラブ | 地域緑化 | 幸区 南加瀬5-38 鷹野大橋北側から矢上川橋 河川敷の植樹帯 | 町内会・自治会 |
| 61 | 辻町ガーデンクラブ | 地域緑化 | 幸区 南加瀬4-37 東側歩道 | 町内会・自治会 |
| 62 | 河原町団地12号館自治会 | 地域緑化 | 幸区 河原町団地12号館周辺 | 町内会・自治会 |
| 63 | 新川崎ふるさとづくりの会 | 地域緑化 | 幸区 新鶴見橋車場跡地 川崎市花のふれあい事業 | サークル |
| 64 | さいわい緑道(東地区)管理運営協議会 | 地域緑化 | 幸区 さいわい緑道(東地区) | サークル |
| 65 | 下沼部みどりの会 | 地域緑化 | 中原区 南武線向河原駅西口暫定花壇 | 町内会・自治会 |
| 66 | 木月四丁目共和会 | 地域緑化 | 中原区 木月四丁目町内一円 | 町内会・自治会 |
| 67 | "ウイズモール"商店会 | 地域緑化 | 中原区 新丸子西口駅前広場周辺 | 商店会 |
| 68 | 多摩川等々力土手のさくらを愛する会 | 地域緑化 | 中原区 等々力土手及びその周辺 | サークル |
| 69 | "一花会"下小田中1丁目町会G・C | 地域緑化 | 中原区 下小田中1丁目町会内 | 町内会・自治会 |
| 70 | 中丸子中町町内会 | 地域緑化 | 中原区 中丸子472番地北側の中丸子緑道 | 町内会・自治会 |
| 71 | 木月二丁目町会 | 地域緑化 | 中原区 木月二丁目会館前 | 町内会・自治会 |
| 72 | 中原ベランダ園芸研究会 | 地域緑化 | 中原区 区内等々力公園内 | サークル |
| 73 | 中丸子東町会 | 地域緑化 | 中原区 中丸子児童公園内 | 町内会・自治会 |
| 74 | 河宿町会 | 地域緑化 | 中原区 町内一円 | 町内会・自治会 |
| 75 | 小杉陣屋町一丁目町会 | 地域緑化 | 中原区 陣屋町公園、陣屋町歩道橋下 | 町内会・自治会 |
| 76 | 中丸子南緑道緑を守る会 | 地域緑化 | 中原区 中丸子南緑道とその周辺道路 | サークル |
| 77 | 井田共和会第二町会 | 地域緑化 | 中原区 井田中ノ町全境及び井田1丁目29番以降、井田中ノ町南公園及び北公園 | 町内会・自治会 |
| 78 | 医大通り商業会商店街(振) | 地域緑化 | 中原区 商店街区内モール(新丸子西口約300m、幅7m) | 商店会 |
| 79 | 木月花クラブ | 地域緑化 | 中原区 木月公園(中原区木月557) | サークル |
| 80 | ニッ領用水中原桃の会 | 地域緑化 | 中原区 第3京浜道路高架下から総合自治会館裏 | サークル |
| 81 | ニッ領用水・中原桃の会プロジェクト21 | 地域緑化 | 中原区 第3京浜道路高架下から総合自治会館裏まで | サークル |
| 82 | (仮)7番地赤べこ会 | 地域緑化 | 中原区 木月大町7番地 北野東道路 | サークル |
| 83 | 川崎市立下沼部小学校PTA | 地域緑化 | 中原区 下沼部小学校校庭 | 学校 |
| 84 | せせらぎ遊歩道ボランティア | 地域緑化 | 中原区 中原区下小田中8丁目江川せせらぎ遊歩道 | サークル |
| 85 | ダイアパレス武蔵小杉環境美化部 | 地域緑化 | 中原区 ダイアパレス武蔵小杉マンション敷地内 | 町内会・自治会 |
| 86 | 久地東町会美化推進部 | 地域緑化 | 高津区 地域内道路際植樹及び空地プランター設置 | 町内会・自治会 |
| 87 | 下作延第1町内会 | 地域緑化 | 高津区 高津区下作延祭場入口角の花壇 | 町内会・自治会 |
| 88 | 「区民ミニ・ガーデン」運営委員会 | 地域緑化 | 高津区 高津区役所、てくのかわさき、すくらむ21、警察署、図書館、スポーツセンター他高津区内の9施設 | サークル |
| 89 | 新作第五自治会 | 地域緑化 | 高津区 町内会 | 町内会・自治会 |
| 90 | 津田山町内会花の町づくり会 | 地域緑化 | 高津区 町内会内 | 町内会・自治会 |
| 91 | 南原ガーデンングクラブ | 地域緑化 | 高津区 上作延307-1 上作第四公園 | サークル |
| 92 | 久地第三町会 | 地域緑化 | 高津区 川崎市高津区久地4-12 | 町内会・自治会 |
| 93 | 清水町ガーデンングクラブ | 地域緑化 | 高津区 蟹ヶ谷清水町大階段の花壇 | 町内会・自治会 |
| 94 | 久地西町フローラル会 | 地域緑化 | 高津区 自治会内の道路わきの花壇づくり | 町内会・自治会 |
| 95 | 二子第一町会 | 地域緑化 | 高津区 高津区二子5-4付近 | 町内会・自治会 |
| 96 | 区民・ミニガーデン花街道グループ | 地域緑化 | 高津区 高津区久保1丁目 道路脇の花壇 | サークル |
| 97 | 区民ミニガーデン花いっぱい部会 | 地域緑化 | 高津区 高津区役所前時計台花壇 溝口駅前キラリデッキ花壇 | サークル |
| 98 | 区民ミニガーデン久地橋花壇グループ | 地域緑化 | 高津区 高津区久地3丁目 久地橋上の花壇 | サークル |
| 99 | 下作延中央町内会美化推進部 | 地域緑化 | 高津区 下作延第2・3公園 | 町内会・自治会 |
| 100 | 野川町内会 | 地域緑化 | 宮前区 野川交差点、野川山下交差点、南野川久末交差点 | 町内会・自治会 |
| 101 | 大塚町内会 | 地域緑化 | 宮前区 宮前区宮崎156-288川崎市宮前1号館グリーンベルト | 町内会・自治会 |
| 102 | 蔵敷商店会 | 地域緑化 | 宮前区 蔵敷交差点花壇3ヶ所 | 商店会 |
| 103 | 平瀬川流域まちづくり協議会 | 地域緑化 | 宮前区 平瀬川流域(上作延~水沢長沢) | 町内会・自治会 |
| 104 | 有馬第2団地緑花クラブ | 地域緑化 | 宮前区 有馬第2団地内 | 町内会・自治会 |
| 105 | みどりの会 | 地域緑化 | 宮前区 清水台団地内 | 町内会・自治会 |
| 106 | 宮前ガーデンング倶楽部 | 地域緑化 | 宮前区 宮崎台駅前、市民広場、宮前平駅から区役所への道路周辺、鷺沼第3公園など | サークル |

| № | 名称 | 活動内容 | 活動場所 | 所属種別/備考 |
|-----|---------------------------|------|--|---------|
| 107 | 宮前コミュニティガーデン実行委員会 | 地域緑化 | 宮前区 宮崎台小学校とNEC中央研究所前の都市計画道路予定地 | サークル |
| 108 | ガーデニング・グループ「こすもす」 | 地域緑化 | 宮前区 平瀬川流域の空き地、蔵敷交差点付近、平児童公園、初山バス停 | サークル |
| 109 | 鷺沼にんじんクラブ | 地域緑化 | 宮前区 鷺沼3、4丁目ロータリー 鷺沼駅前 鷺沼北公園斜面 | サークル |
| 110 | 神木公園愛護会 | 地域緑化 | 宮前区 神木公園 | 町内会・自治会 |
| 111 | 神原団地自治会 | 地域緑化 | 宮前区 神原団地自治会内 | 町内会・自治会 |
| 112 | 花の台公園愛護会 | 地域緑化 | 宮前区 宮前平第3公園、宮崎第2公園 | 町内会・自治会 |
| 113 | 初山初友会 | 地域緑化 | 宮前区 宮前区初山1-20 | サークル |
| 114 | あじさいクラブ | 地域緑化 | 宮前区 神木山等寛院の境内裏山の道路の下草刈り及びあじさい等の植栽 | サークル |
| 115 | 有馬オープンガーデンの会 | 地域緑化 | 宮前区 ふるさと公園(有馬8丁目)及びその周辺 | サークル |
| 116 | 花で町を飾る会 | 地域緑化 | 宮前区 鷺ヶ峰子供の里公園、タコ公園前、神原小学校、平瀬川上流 菅生こども文化センター 鷺ヶ峰老人ホーム | サークル |
| 117 | 南平自治会 | 地域緑化 | 宮前区 旧南平児童ホール跡地 | 町内会・自治会 |
| 118 | 宮崎6丁目自治会 | 地域緑化 | 宮前区 宮崎第4公園 | 町内会・自治会 |
| 119 | ひまわりの会 | 地域緑化 | 宮前区 子育て広場 すがお | サークル |
| 120 | 野川台自治会 | 地域緑化 | 宮前区 野川第一公園 | 町内会・自治会 |
| 121 | 第一農勝会 サンサンクラブ | 地域緑化 | 宮前区 平日向自治会エリアの花壇づくり | サークル |
| 122 | 宮前平こ文ガーデニング | 地域緑化 | 宮前区 宮前平こども文化センター | サークル |
| 123 | 野川第4公園管理運営協議会 | 地域緑化 | 宮前区 野川第4公園 | 町内会・自治会 |
| 124 | 長沢団地会 | 地域緑化 | 多摩区 道路空間及びバス停周辺 | 町内会・自治会 |
| 125 | 登戸新町町内会 | 地域緑化 | 多摩区 登戸第2公園 | 町内会・自治会 |
| 126 | 宿河原西丁目町会ガーデニング部 | 地域緑化 | 多摩区 宿河原西丁目自治会館の隣地、空地での花壇整備 | 町内会・自治会 |
| 127 | かりがね自治会 | 地域緑化 | 多摩区 かりがね自治会内(道路下種斜地) | 町内会・自治会 |
| 128 | 新多摩川ハイム・ガーデニング・クラブ | 地域緑化 | 多摩区 新多摩川ハイムのコミュニティ広場周辺 | サークル |
| 129 | 生田みどり自治会 | 地域緑化 | 多摩区 生田寒谷公園 | 町内会・自治会 |
| 130 | 堰町会 | 地域緑化 | 多摩区 堰地域内 | 町内会・自治会 |
| 131 | 長尾町会環境美化部 | 地域緑化 | 多摩区 長尾会館、平板周辺 | 町内会・自治会 |
| 132 | 星が丘長生会(老人クラブ) | 地域緑化 | 多摩区 多摩区菅馬場3-21-1 川崎市西菅地区教育用地内市立南菅小学校管理地一部を利用 | サークル |
| 133 | 久地キンモクセイの会 | 地域緑化 | 多摩区 川崎府中線ニヶ瀬用水新久地橋グリーンポケット | サークル |
| 134 | 菜の花咲かせる会 | 地域緑化 | 多摩区 稲田公園2ヶ所菜の花種まき ニヶ瀬用水付近 菅住宅周辺 | サークル |
| 135 | 花と緑の町づくりボランティア活動「長沢花みずき会」 | 地域緑化 | 多摩区 長沢自治会全域 | 町内会・自治会 |
| 136 | 菅馬場3丁目環境部会 | 地域緑化 | 多摩区 菅馬場3丁目女子大通り植樹帯ほか | 町内会・自治会 |
| 137 | 薫る坂ガーデンの会 | 地域緑化 | 多摩区 多摩区菅馬場3-36ほか | 町内会・自治会 |
| 138 | 宿河原東住宅自治会園芸クラブ | 地域緑化 | 多摩区 宿河原東住宅内 | 町内会・自治会 |
| 139 | 菅馬場グリーンクラブ | 地域緑化 | 多摩区 菅北浦緑地 憩いの広場 | サークル |
| 140 | 柿生保育園 | 地域緑化 | 麻生区 柿生保育園 | 学校 |
| 141 | 麻生区百合ヶ丘1丁目町会 | 地域緑化 | 麻生区 百合ヶ丘第3、7児童公園 | 町内会・自治会 |
| 142 | 千代ヶ丘自治会公園花の会 | 地域緑化 | 麻生区 千代ヶ丘第一公園、千代ヶ丘第二公園、千代ヶ丘第三公園 | 町内会・自治会 |
| 143 | けやきの会 | 地域緑化 | 麻生区 特別養護老人ホーム 金井原苑 | サークル |
| 144 | 王禅寺ふるさと公園を育む会 | 地域緑化 | 麻生区 王禅寺ふるさと公園 | サークル |
| 145 | NPOかわさき自然と共生の会 | 地域緑化 | 麻生区 麻生区岡上他 | サークル |
| 146 | 花と市民参加の会"コスモス" | 地域緑化 | 麻生区 新ゆりグリーンタウン外周一方通行周辺(白山西緑地敷) | サークル |
| 147 | 麻生台団地管理組合 | 地域緑化 | 麻生区 麻生台団地敷地内 | 町内会・自治会 |
| 148 | 西塔之越手をつなぐ会 | 地域緑化 | 麻生区 麻生区西百合ヶ丘1-7163-3(市有地) | サークル |
| 149 | 虹ヶ丘コミュニティおやじの会 | 地域緑化 | 麻生区 虹ヶ丘1丁目街路樹250箇所 | サークル |
| 150 | フェアリーベル | 地域緑化 | 麻生区 しらかし園(通所授産施設) | サークル |
| 151 | あさおの道・花壇友の会 | 地域緑化 | 麻生区 麻生区上麻生4-15 | サークル |
| 152 | 葉積緑と花の会 | 地域緑化 | 麻生区 葉積緑地内 | サークル |

■ 活動内容の「地域緑化」とは、花壇づくりやその維持管理。

■ 環境局緑政部緑政課で把握している「緑の活動団体」名簿をもとに、活動内容別にまとめた。

川崎市 緑の活動団体一覧(2) ~緑地保全~

| NO | 名称 | 活動内容 | 活動場所 | 水系 | 団体種類/備考 |
|----|----------------------|------|--|---------|---------|
| 1 | 海風の森をMAZUつくる会 | 緑地保全 | 川崎区 川崎区市民健康の森、伊島町公園(愛称:海風の森) | (多摩川水系) | サークル |
| 2 | さいわい加瀬山の会 | 緑地保全 | 幸区 幸区市民健康の森、夢見ヶ崎公園(愛称:加瀬山) | 鶴見川水系 | サークル |
| 3 | 伊勢台緑地保存会 | 緑地保全 | 中原区 伊勢台緑地 | 鶴見川水系 | サークル |
| 4 | 中原区市民健康の森を育てる会 | 緑地保全 | 中原区 中原区市民健康の森及び周辺(井田山) | 鶴見川水系 | サークル |
| 5 | 津田山緑地里山の会 | 緑地保全 | 高津区 高津区久地543-9地先 久地緑地保全地区 | 多摩川水系 | サークル |
| 6 | 川崎・多摩丘陵の里山を守る会 | 緑地保全 | 高津区 高津区末長、久本山、熊野森、久本 間家跡地 | 多摩川水系 | サークル |
| 7 | 高津区市民健康の森を育てる会 | 緑地保全 | 高津区 高津区市民健康の森 | 鶴見川水系 | サークル |
| 8 | 久末ふれあいの森を育てる会 | 緑地保全 | 高津区 久末ふれあいの森(高津区久末字梅ヶ久保609-1) | 鶴見川水系 | サークル |
| 9 | 水沢森人の会 | 緑地保全 | 宮前区 宮前区市民健康の森、蒼生緑地 | 多摩川水系 | サークル |
| 10 | 大蔵谷戸の自然に親しむ会 | 緑地保全 | 宮前区 大蔵1号公園(仮称) | 鶴見川水系 | サークル |
| 11 | 野川はあも | 緑地保全 | 宮前区 南野川ふれあいの森 | 鶴見川水系 | サークル |
| 12 | 宮崎第4公園・緑の里山の会 | 緑地保全 | 宮前区 宮崎第4公園 斜面緑地の保全 | 鶴見川水系 | サークル |
| 13 | 多摩緑地保全地区こもれびの会 | 緑地保全 | 多摩区 多摩緑地保全地区及び隣接の多摩自然遊歩道整備 | 多摩川水系 | サークル |
| 14 | 小沢城址里山の会 | 緑地保全 | 多摩区 小沢城址緑地保全地区(多摩区菅刈石) | 多摩川水系 | サークル |
| 15 | 生田緑地の雑木林を育てる会 | 緑地保全 | 多摩区 生田緑地(北部公園) | 多摩川水系 | サークル |
| 16 | 緑地観察会 | 緑地保全 | 多摩区 生田緑地、東生田緑地(市民健康の森) | 多摩川水系 | サークル |
| 17 | 飛鳥谷戸の自然を守る会 | 緑地保全 | 多摩区 川崎国際生田ゴルフ場隣接の南東の宮前区内雑木林 | 多摩川水系 | サークル |
| 18 | 日向山うるおし会 | 緑地保全 | 多摩区 多摩区市民健康の森、東生田緑地(愛称:日向山の森) | 多摩川水系 | サークル |
| 19 | 里び丘緑地の会(ふとりを守るグループ) | 緑地保全 | 多摩区 菅北浦緑地中央 | 多摩川水系 | サークル |
| 20 | まほろばの会 | 緑地保全 | 多摩区 菅馬場谷緑地 | 多摩川水系 | サークル |
| 21 | 長尾の雑木林を楽しむ会 | 緑地保全 | 多摩区 多摩区長尾3丁目妙楽寺北側斜面 | 多摩川水系 | サークル |
| 22 | かわさき自然調査団 | 緑地保全 | 多摩区 生田緑地 | 多摩川水系 | サークル |
| 23 | 藤浦緑化部 | 緑地保全 | 多摩区 多摩区生田8-3185-1 | 多摩川水系 | サークル |
| 24 | 生田山の手自治会 | 緑地保全 | 多摩区 多摩区生田5-1967-1 ふれあいの森 | 多摩川水系 | 町内会・自治会 |
| 25 | 生田緑地の谷戸とホトケドジョウを守る会 | 緑地保全 | 多摩区 多摩区生田緑地中央地区 | 多摩川水系 | サークル |
| 26 | 水こりの会 | 緑地保全 | 麻生区 麻生区下麻生1156 龍口池公園他 | 鶴見川水系 | 町内会・自治会 |
| 27 | 早野聖地公園里山ボランティア | 緑地保全 | 麻生区 早野聖地公園内 | 鶴見川水系 | サークル |
| 28 | 多摩美みどりの会 | 緑地保全 | 麻生区 多摩美ふれあいの森、日本タンポポ自生地、野草苑、多摩美児童公園及び以上の周辺 | 多摩川水系 | 町内会・自治会 |
| 29 | “まちばミュージアム”遊歩道ファンクラブ | 緑地保全 | 麻生区 おっ越し山及び周辺 | 鶴見川水系 | サークル |
| 30 | 麻生多摩美の森の会 | 緑地保全 | 麻生区 麻生区市民健康の森 | 多摩川水系 | サークル |
| 31 | 風の谷幼稚園 緑の会 | 緑地保全 | 麻生区 川崎市麻生区風の谷幼稚園周辺、雑木林の下草刈り・整備 | 鶴見川水系 | 学校 |
| 32 | かりうど | 緑地保全 | 麻生区 むじなが池公園、白山地区 | 鶴見川水系 | サークル |
| 33 | くろかわグリーンネットワーク | 緑地保全 | 麻生区 黒川の公園開発地区内の緑地 | 多摩川水系 | サークル |
| 34 | あさおグリーンネットワーク | 緑地保全 | 麻生区 上麻生隠れ谷公園 | 鶴見川水系 | サークル |
| 35 | 霞ヶクラブ | 緑地保全 | 麻生区 向原の里緑地保全地区 南緑地、北緑地 向原緑地 | 鶴見川水系 | サークル |
| 36 | 社会福祉法人セイリ川崎産学園 | 緑地保全 | 麻生区 敷地内、周辺の山林等 | 鶴見川水系 | サークル |
| 37 | 日枝神社氏子会 | 緑地保全 | 麻生区 山王社日枝神社境内及び緑地協定地区(麻生区王禅寺911) | 鶴見川水系 | サークル |
| 38 | はるひ野里山学校 | 緑地保全 | 麻生区 麻生区黒川 | 多摩川水系 | サークル |
| 39 | 農と緑を愛する会 | 緑地保全 | 麻生区 多摩市永山の国士館高等学校舎南側に接する川崎市所有の樹林地(麻生区黒川) | 多摩川水系 | サークル |

■ 活動内容の「緑地保全」とは、下草刈り等の里山保全。

■ 環境局福祉部緑政課で把握している「緑の活動団体」名簿をもとに、活動内容別にまとめた。

参考文献一覧 (1) ~書籍・資料・報告書など~

| NO | 文献名 | 著者 | 発行日 | 発行所 |
|----|---|----------------------------------|------------|---------------------|
| 1 | 水のこころ誰に語らん ~多摩川の河川生態~ | 小倉紀雄・河川生態学術研究会多摩川研究グループ | 2003/11/1 | (財)リバーフロント整備センター |
| 2 | 美しき日本の川 | 大塚 高雄 | 2006/6/25 | (株)クレオ |
| 3 | 日本の川100 | 高橋 聡明・大西 成明 他 | 2004/7/28 | ピエ・ブックス |
| 4 | 水辺の環境ガイド | 平井 幸弘 | 2005/1/31 | 古今書院 |
| 5 | 川崎市シティセールス戦略プラン | 総合企画局企画部広域企画課 | 2005/3 | 川崎市 |
| 6 | 「川」が語る東京 | 東京の川研究会 代表 松井吉昭 | 2001/12/10 | (株)山田出版社 |
| 7 | 川で実践する福祉・医療・教育 | 川での福祉・医療と教育研究会 | 2004/10/10 | (株)学芸出版社 |
| 8 | 感動と笑顔の清流体験 | 山梨県小菅村・多摩川源流研究所 | 2005/5 | 多摩川源流研究所 |
| 9 | あなたの川は元気ですか | 石田幸彦 | 2002/7/7 | 百水社(有) |
| 10 | 都市データブック(2005年版) | 高橋宏 | 2005/6 | 東洋経済新報社 |
| 11 | 川崎研究 第41号 | 川崎郷土研究会 | 2003 | 川崎郷土研究会 |
| 12 | 川崎研究 第40号 | 川崎郷土研究会 | 2002 | 川崎郷土研究会 |
| 13 | 川崎研究 第39号 | 川崎郷土研究会 | 2001 | 川崎郷土研究会 |
| 14 | 史誌 かわさき 創刊号 | 川崎区誌研究会 | 2001 | 川崎区誌研究会 |
| 15 | 史誌 かわさき 第2号 | 川崎区誌研究会 | 2002 | 川崎区誌研究会 |
| 16 | ニヶ瀬用水 400年~よみがえる水と緑~ | 長島 保 他 | 1999 | 神奈川新聞社 |
| 17 | わがまちさいわい物語 | 川崎市幸区区政推進課 | 2002 | 神奈川新聞社 |
| 18 | 多摩川水系河川整備計画視本 | 国土交通省関東地方整備局京浜工事事務所 | 2001/8 | (財)河川環境管理財団 |
| 19 | 河川環境総合研究所 平成16年度研究概要 | (財)河川環境管理財団 | 2005/5 | (財)河川環境管理財団企画調整部 |
| 20 | 用水と漏水 | (株)産業用水調査会 | 2006/1 | (株)産業用水調査会 |
| 21 | 多摩川ミニ・データブック 多摩川の概要 | 多摩川94橋梁実行委員会編集 | 1994/3/1 | (財)とうきゅう環境浄化財団発行 |
| 22 | 水道用語辞典 第2版 | (社)日本水道協会 | 2003/3 | (社)日本水道協会 |
| 23 | 日本におけるカシンベック病の研究 | 瀧澤 延次郎 | 1970/4 | 縮方書店 |
| 24 | リバーネーム | 岸 由二 | 1994/5/27 | (株)リトル・モア |
| 25 | 川 人 街 川を活かしたまちづくり | 進士五十八・岸由二ほか (財)リバーフロント整備センター編 | 2001 | (財)リバーフロント整備センター |
| 26 | RIVERFRONT(2005 vol.54) | (財)リバーフロント整備センター | 2005/9 | (財)リバーフロント整備センター |
| 27 | 森、里、川、海をつなぐ自然再生 | 自然再生を推進する市民団体連絡会 | 2005 | 中央法規出版株式会社 |
| 28 | TAMAらいふ21白書 多摩新時代の創造に向けて [第4巻/多摩川の復権] | TAMAらいふ21協会 | 1994/3 | TAMAらいふ21協会 |
| 29 | 多摩川が教えてくれたもの ~ニヶ瀬せせらぎ環境楽習報告書~ 2005年度版 | NPO法人多摩川エコミュージアム | 2006/3 | NPO法人多摩川エコミュージアム |
| 30 | 水辺を歩こう多摩川 ガイド&ハンドブック 2004 | 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所 | 2004/3 | 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所 |
| 31 | 文化かわさき 第14号 | 川崎市総合文化団体連絡会 | 1992 | 川崎市教育委員会社会教育部文化課 |
| 32 | 川崎市民意識実態調査 | 川崎市 | 1998/3 | 総務局秘書部報道・市民の声担当 |
| 33 | 川崎市民意識実態調査 | 川崎市 | 2004/3 | 総務局秘書部報道・市民の声担当 |
| 34 | 川崎市民意識実態調査 | 川崎市 | 2006/3 | 総務局秘書部報道・市民の声担当 |

| NO | 文献名 | 著者 | 発行日 | 発行所 |
|----|--|-----|---------|------------------------|
| 35 | 川崎市政及び区政に関する市民一人アンケート | 川崎市 | 2003/3 | 川崎市市民局地域生活部区政課 |
| 36 | クォーリー かわさき 39号 | 川崎市 | 1994 | 市民局市民文化室 |
| 37 | クォーリー かわさき 41号 | 川崎市 | 1994 | 市民局市民文化室 |
| 38 | 平成17年度 環境局事業概要 | 川崎市 | 2005/12 | 環境局緑政部緑政企画担当 |
| 39 | 環境局政策提言 政策成果発表会資料 | 川崎市 | 2006/2 | 環境局 |
| 40 | 川崎市緑の基本計画 かわさき緑の30プラン(増補改訂版) | 川崎市 | 2001/3 | 環境局環境企画室 |
| 41 | 川崎市地下水保全計画 | 川崎市 | 2002/7 | 環境局公害部水質課 |
| 42 | 環境基本計画年次報告書(2005年度版) | 川崎市 | 2005 | 環境局 |
| 43 | 平成17年度 環境局事業概要(緑編) みどりと公園 | 川崎市 | 2005/12 | 環境局 |
| 44 | 川崎市多摩川エコミュージアムプラン 報告書 | 川崎市 | 2001/5 | 総合企画局企画部企画推進課 |
| 45 | 水循環型の都市づくりのための新たな 施策について(平成13年度政策課題研 究Bチーム報告書) | 川崎市 | 2002/3 | 総合企画局都市政策部 |
| 46 | 川崎臨海部「水と緑のネットワーク」 構想策定調査 | 川崎市 | 2004/3 | 総合企画局都市再生・臨海部整備推進 室 |
| 47 | 川崎市シティセールス戦略プラン | 川崎市 | 2005/3 | 総合企画局企画部広域企画課 |
| 48 | 平成17年度 国勢調査結果速報による 大都市比較 | 川崎市 | 2006/2 | 総合企画局都市経営部統計情報課 |
| 49 | 政策情報川崎 第19号 | 川崎市 | 2006 | 総合企画局政策部 |

参考文献一覧 (2) ~ホームページ~

| NO | ホームページ名 | URL |
|----|----------------------------------|--|
| 1 | 京浜河川事務所 | http://www.keihin.ktr.mlit.go.jp/index_top.html |
| 2 | 多摩川の汽水域 | http://park10.wakwak.com/~tamagawa/contents.html |
| 3 | 荒川下流河川事務所 | http://www.ara.or.jp/araage/index.html |
| 4 | 「川の風景」 | http://www.ne.jp/asahi/voikawa/soikei/sub3-0.htm |
| 5 | 多摩川産しの会 | http://home.n03.itcom.net/tyashi/right.htm |
| 6 | 荒川上流河川事務所 | http://www.ktr.mlit.go.jp/araup/ |
| 7 | 荒川流域ネットワーク | http://www.ara-river-net.jp/ |
| 8 | 河川環境ステーション | http://www.kagen.or.jp/index.asp |
| 9 | 真岡市自然教育センター | http://www.city.moka.tochigi.jp/shizen/ |
| 10 | 栃木県営都市公園 | http://www.pref.tochigi.jp/kouen/ |
| 11 | 小菅村エコセラピー研究会 | http://blog.sou.ne.jp/ecotherapy/ |
| 12 | NPO未来につなごう鬼怒川・小貝川の会 | http://www.intio.or.jp/nookkk/ |
| 13 | 下館河川事務所 | http://www.ktr.mlit.go.jp/shimodate/ |
| 14 | カントウ・リバー・スコープ | http://www.ktr.mlit.go.jp/kvoku/river/00tkindx.htm |
| 15 | 生活体験・自然体験が日本の子どものこころをはぐくむ | http://www.next.go.jp/b_menu/shingai/12/shouzai/tochigi/990502.htm |
| 16 | ゴミ拾いでコミュニケーション | http://beachful.livedoor.biz/archives/cat_200744.html |
| 17 | ニヶ瀬せせらぎ館 | http://www.seseragikan.com |
| 18 | arch-hiroshimaオープンカフェの景 | http://www.arch-hiroshima.net/arch-hiroshima/ci/v/ouencate/ouencate.html |
| 19 | (株)レジャーリンクジャパン | http://www.lj-japan.co.jp |
| 20 | EICネット | http://www.eic.or.jp |
| 21 | 大和川河川事務所 | http://www.yamato.moc.go.jp |
| 22 | 多摩川誌 | http://www.tamriver.net/jochou/tamagawashi/topindex.htm/ |
| 23 | 荒川クリーンエイド | http://www.cleanaid.jp |
| 24 | 石狩川 | http://www.asahi-net.or.jp |
| 25 | 荒川下流河川事務所 (荒川ロックゲート) | http://www.ara.or.jp/lockgate/function/index.html |
| 26 | 利根川 | http://ja.wikipedia.org/wiki |
| 27 | 荒川 | http://www.mlit.go.jp/river/iten/nihon_kawa |
| 28 | 多摩川 | http://www.mlit.go.jp/river/iten/nihon_kawa |
| 29 | 多摩川と鶴見川 | http://www-zis.nies.go.jp/graph/tsurumi.html |
| 30 | 河川空間の現状と課題 | http://www.mlit.go.jp/river/gaiyou/seibi/pdf/tama-ref7. |
| 31 | 関東リバーズコープ (小貝川) | http://www.ktr.mlit.go.jp/kvoku/river/river_info/koka_02_01.htm |
| 32 | 大幡防災ステーション | http://www.ktr.mlit.go.jp/kvoku/office/gaiyou/h17 |
| 33 | 多摩川源流研究所 | http://www.tamagwatenryu.net/index.html |
| 34 | 鶴見川流域ネットワーク | http://www.tr-net.or.jp/ |
| 35 | 多摩川っておもしろい！～小中学校先生向け多摩川環境学習支援サイト | http://www.tamazawa138.net/ |
| 36 | 真岡市鬼怒水辺観察緑地 | http://www.city.moka.tochigi.jp/kimuzube/ |
| 37 | 国土交通省河川局 | http://www.mlit.go.jp/river/index.html |
| 38 | 国土交通省 川の学習素材サーチ | http://kensaku.kawamarabi.jp/index.html |
| 39 | 小菅村 | http://www.vill.kosuge.yamanashi.jp/ |
| 40 | 真岡市自然教育センター | http://www.city.moka.tochigi.jp/shizen/ |
| 41 | 川と流域の風景 | http://www.ne.jp/asahi/voikawa/soikei/index.htm |
| 42 | Cav's 学習用リンク集 「環境(かんきょう):多摩川」 | http://home.hiway.ne.jp/cav/link/eco_tama.htm |
| 43 | 多摩川・リバーシップの会 | http://b-flag.com/river-ship/index.html |
| 44 | 多摩川紀行 | http://members.icom.home.ne.jp/2231247101/tamagawa-kiko.htm |
| 45 | 多摩川流域リバーミュージアム | http://www.tamriver.net/index.htm |
| 46 | 多摩川いかだレースニュース | http://www001.upp.su-net.ne.jp/organize/ |

| NO | ホームページ名 | URL |
|----|------------------------------|---|
| 47 | 矢口小6年生が手作りの舟「魂心丸」で多摩川を渡りました! | http://www.tamariver.net/topics/topics27/topics27.htm |
| 48 | かわさき水辺の楽校活動報告～ランド大改造～ | http://www.tamariver.net/katsudou/katsudou_1/a5/bizube/kawasaki/20050818/index |
| 49 | 「水の都大阪」の再生（大阪府企画調整部企画室） | http://www.pref.osaka.jp/kikaku/suito/ |
| 50 | 水都OSAKA.net | http://www.suito-osaka.net/html/tenna-futou.html |
| 51 | 大阪21世紀協会 | http://www.osaka21.or.jp |
| 52 | 「川の総合的な学習」支援サイト かつばのがっこう | http://kama.ncc.co.jp/html/forum.html |
| 53 | 葉の花プロジェクト | http://www.econavi.or.jp/bdf.html |
| 54 | とうきゅう環境浄化財団 | http://home.odf.itcom.net/tokyuenv/index.html |
| 55 | 河川環境情報ステーション（河川環境管理財団） | http://www.kusen.or.jp/ |
| 56 | 川崎市中原区（都市計画マスタープラン） | http://www.city.kawasaki.jp/50/50tosike/home/tosimasu/naka2top.htm |
| 57 | 川崎市民ミュージアム | http://www.city.kawasaki.jp/86/88museum/home/museum.html |
| 58 | 国土地理院 | http://www.gsi.go.jp/ |
| 59 | 多摩川を考える | http://www1.odn.ne.jp/amarius/tamazawa/entoh01.html |
| 60 | 用水路のある光景 | http://bumier.bird.to/town/canal/ |
| 61 | 登戸情報局 | http://www.naborito.info/ |
| 62 | （財）かわさき市民活動センター | http://www.kawasaki-shiminkatsudo.or.jp/ |

■ 「多摩川流域 関連団体」の各団体のホームページも参考にしました。

活動記録

■2005（平成17）年

| 日時 | 研究／調査 | 内容 |
|--------------------|--|--|
| 8月5日(金) | 第1回 政策課題研究会 | 委嘱状交付、ワークショップ 多摩川施策推進事業について |
| 8月20日(土) | 夏休み移動水族館 | 「せせらぎ館が水族館！！」(ニヶ領せせらぎ館イベント) |
| 8月20日(土) | 第18回多摩川流域セミナー | 「多摩川の環境をつないで語ろう！～源流から、河口から～」 |
| 8月27日(土) | 多摩川流域見学会 | 河口干潟、調布取水堰、野川森間浄化施設、ニヶ領せせらぎ館、多摩川上流水再生センター、川崎市生田浄水場 |
| 9月1日(水) | 第2回 政策課題研究会 | 「水のこころ誰に語らん」による多摩川史について |
| 9月21日(水) | 第3回 政策課題研究会 | ニヶ領用水、他河川（荒川）について |
| 9月26日(月) | 第4回 政策課題研究会 | 上丸子小学校総合学習(ボート体験、多摩川の歴史、水質検査)への参加 |
| 10月12日(水) | 第5回 政策課題研究会 | 上丸子小学校総合学習報告、多摩川（荒川、利根川、相模川、鶴見川）について |
| 10月17日(月) | 第6回 政策課題研究会 | 中間報告準備 |
| 10月18日(火) | 中間報告会 | |
| 10月27日(木) | 第7回 政策課題研究会 | 現地調査（幸区船着場～御幸公園前河川敷） |
| 11月6日(日) | 多摩川講演会 | 「多摩川はこんなに面白い！」(中本賢さん) |
| 11月19日(月) | 第1回多摩川発見ミニツアー 第1回多摩川サロン | 河口付近の多摩川 「多摩川の記憶と風景」 |
| 11月22日(火) | 多摩川源流視察 | 林業廃棄物処理施設、源流研究所、水干 |
| 12月1日(木)～ 2日(金) | 先進地事例調査 鬼怒グリーンパーク 真岡市自然教育センター 真岡市鬼怒水辺観察センター 下館河川事務所 小貝川ふれあい公園 鬼怒フラワーライン 青龍水辺の楽校 小貝川ポニー牧場 NPO法人小貝川プロジェクト21 | 水辺空間を活用したフィールド利用 義務教育の中での自然体験 防災ステーションとの共存方法 アダプトプログラム、フラワーベルト、3次元プロジェクト等 花いっぱい運動と小貝川フラワーベルト構想による公園 行政、地域、ボランティア団体との協働 水辺の楽校を介した地域との連携 ポニー教室の体験、運営の現状と問題 3次元プロジェクト、生き生きクラブの運営等 |
| 12月10日(土) | 第2回多摩川発見ミニツアー 第2回多摩川サロン | 二子橋周辺の多摩川緑地 「多摩川の施設と空間」 |
| 12月21日(水) | 第8回 政策課題研究会 | 報告書の方角について |
| 12月26日(月) | 多摩川 体験学習研修会&発表会 | 上丸子小学校、宮内中学校等学習内容の報告 |

■2006（平成18）年

| 日時 | 研究／調査 | 内容 |
|----------|---------------------------------------|---|
| 1月14日（土） | 第3回多摩川発見ミニツアー 第3回多摩川サロン | ニヶ領せせらぎ館周辺 「多摩川の自然と環境教育」 |
| 1月19日（木） | 市民局地域生活部地域生活課ヒアリング | 多摩川美化活動について |
| 1月20日（金） | 環境局緑政部公園管理課ヒアリング 環境局緑政部緑政企画担当ヒアリング | 市内公園緑地の維持管理について 緑の基本計画について |
| 1月23日（月） | 第9回 政策課題研究会 | 最終報告における提言内容のについて |
| 1月26日（木） | せせらぎ館ヒアリング 多摩区役所総務企画課ヒアリング | 活動の内容と課題 NPO、市民団体の活動との協働支援、ネットワークの構築 |
| 1月29日（日） | とどろき水辺の楽校 | のり作りと河口クルーズ |
| 1月30日（月） | 健康福祉局地域福祉部地域福祉課 | ホームレス対策について |
| 1月31日（火） | 建設局土木建設部河川課ヒアリング | 川崎市河川愛護アダプトプログラム試行事業について |
| 2月6日（月） | 環境局生活環境部廃棄物政策ヒアリング | 生ゴミの堆肥を多摩川へ利用する可能性について |
| 2月6日（月） | 多摩川遊クラブヒアリング | ゴミ、カヤ刈等活動内容と課題について |
| 2月9日（木） | 下布田小学校ヒアリング | 多摩川を引いた「せせらぎ園」の教育への活用状況 |
| 2月11日（土） | 「虹をかけた男」田中兵庫物語 | ニヶ領用水について |
| 2月12日（日） | 川崎市市民ミュージアムヒアリング | 小学校での教育カリキュラムの現状と課題 |
| 2月13日（月） | 教育委員会研修センターヒアリング 幸区役所地域振興課ヒアリング | 小、中学校での教育カリキュラムの現状と課題 魅力ある区づくり推進事業等 |
| 2月15日（水） | 京浜河川事務所ヒアリング | 多摩川の現状と課題、提案内容の可能性 |
| 2月27日（月） | 第10回 政策課題研究会 | 報告書作成 |
| 3月9日（木） | 第11回 政策課題研究会 | 報告書作成 |
| 3月23日（金） | 第12回 政策課題研究会 | 報告書作成 |
| 3月27日（月） | 第13回 政策課題研究会 | 報告書作成 |
| 4月14日（金） | 第14回 政策課題研究会 | 報告書作成 |
| 4月20日（木） | 第15回 政策課題研究会 | 報告書作成 |
| 4月26日（水） | 第16回 政策課題研究会 | 報告書作成 |

お世話になった方々

ヒアリングや写真提供というかたちで大変多くの方にお世話になりました。お忙しい中、お時間をさいていただき、ありがとうございました。

<ヒアリングでお世話になった方々>

| | |
|--|----------|
| 小菅村 村長 | 廣瀬 文夫 氏 |
| 小菅村役場源流振興課 主査 | 奥秋 一俊 氏 |
| 多摩川源流研究所 所長 | 中村 文明 氏 |
| 多摩川源流研究所 研究員 | 中川 徹 氏 |
| エコセラピー研究会 | 中田 無双 氏 |
| 真岡市自然教育センター 所長 | 大森 清隆 氏 |
| 真岡市鬼怒水辺観察センター 所長 | 山岸 武 氏 |
| 真岡市鬼怒水辺観察センター ボランティア | 石川 ふく 氏 |
| 国土交通省関東地方整備局下館河川事務所 副所長 | 唐沢 潔 氏 |
| 国土交通省関東地方整備局下館河川事務所調査課 専門調査員 | 林 正男 氏 |
| NPO法人小貝川プロジェクト21 | 高橋 晃雄 氏 |
| 小貝川ボニー牧場 の皆さん | |
| ニヶ領せせらぎ館館長/多摩川と語る会代表 | 田中 喜美子 氏 |
| NPO法人多摩川エコミュージアム事務局長/とどろき水辺の楽校 代表幹事 | 鈴木 眞智子 氏 |
| 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所河川環境課 課長 | 齋田 紀行 氏 |
| 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所河川環境課 係長 | 土屋 秋男 氏 |
| 多摩川遊クラブ 会長 | 小泉 茂 氏 |
| 上丸子小学校 | |
| 下布田小学校 | |
| 世田谷区役所玉川地域玉川公園管理事務所 | |

<写真を提供していただいた方々>

本吉 龍造 氏 (とどろき水辺の楽校)
倉形 泰造 氏
小串 嘉男 氏

<川崎市>

| | |
|--------------------|---------|
| 総合企画局都市経営部企画調整課 主査 | 中川 耕二 氏 |
| 市民局地域生活部地域生活課 主任 | 齊藤 誠 氏 |

| | |
|-----------------------------|----------|
| 環境局緑政部緑政課 主査 | 清田 美弥子 氏 |
| 環境局緑政部緑政課 主任 | 平井 一正 氏 |
| 環境局緑政部公園管理課 主幹 | 関口 正敏 氏 |
| 環境局緑政部緑政企画担当 副主幹 | 鈴木 直仁 氏 |
| 環境局緑政部緑政企画担当 | 渡邊 光次郎 氏 |
| 環境局緑政部多摩川施策推進担当 参事 | 萩原 哲 氏 |
| 環境局緑政部多摩川施策推進担当 副主幹 | 佐々木 信智 氏 |
| 環境局緑政部多摩川施策推進担当 主査 | 箕輪 秀生 氏 |
| 環境局緑政部多摩川施策推進担当 主査 | 中村 茂 氏 |
| 環境局緑政部多摩川施策推進担当 | 舞木 史彦 氏 |
| 環境局緑政部多摩川施策推進担当 | 石垣 秀之 氏 |
| 環境局生活環境部廃棄物政策担当 主査 | 大竹 正一 氏 |
| 健康福祉局地域福祉部地域福祉課 課長 | 加賀谷 一樹 氏 |
| まちづくり局総務部企画課 | 塚本 猛 氏 |
| まちづくり局計画部都市計画課 主査 | 岡田 実 氏 |
| まちづくり局計画部都市計画課 | 砂田 亮介 氏 |
| まちづくり局計画部都市計画課 | 亀山 祐司 氏 |
| まちづくり局計画部景観・まちづくり支援課 主査 | 中上 一夫 氏 |
| まちづくり局計画部景観・まちづくり支援課 | 下田 真人 氏 |
| 建設局土木建設部河川課 副主幹 | 高坂 徹 氏 |
| 幸区役所区民協働推進部地域振興課 主査 | 中根 美保 氏 |
| 幸区役所区民協働推進部地域振興課 | 西牟田 素子 氏 |
| 多摩区役所総務企画課企画調整担当 副主幹 | 武井 隆幸 氏 |
| 多摩区役所総務企画課企画調整担当 主任 | 加藤 洋子 氏 |
| 病院局総務部経営企画課 | 中山 健 氏 |
| 病院局多摩病院準備担当 | 野村 成人 氏 |
| 教育委員会総合教育センターカリキュラムセンター指導主事 | 上杉 岳啓 氏 |
| 教育委員会総合教育センターカリキュラムセンター指導主事 | 黒川 保之 氏 |
| 市民ミュージアム学芸員 主査 | 深川 雅文 氏 |

研究をおえて

これまで約8ヶ月間にわたって、多摩川と川崎の人やまちとの距離を意識しながら研究を進めてきた。かつて多摩川は、その豊富な水が大都市江戸を支えるほど、人びとにとってなくてはならない存在であった。また、子どもたちのかっこうの遊び場であり、日々の暮らしの中を流れるニヶ領用水などの支川と一緒に川崎のまちをつくってきた。しかし、流域人口の増加や、経済発展を進めていく手段として多摩川が使われてしまったことで、多摩川は汚れ、人が水際に近寄らなくなってしまったのである。

こうした状況の中、下水道整備が進み、さらには、熱心な市民活動団体により、いち早く環境への取り組みをスタートさせたことで、都市に隣接しながらも貴重な自然空間を、今も残すことができている。現在、自然環境の存在価値が見直されたこともあり、散歩、スポーツ、釣り、バーベキューなど、多くの人によって多様な利用がなされおり、多摩川と川崎の人やまちとの距離は、着実に近づきつつあるといえるだろう。

今後、市街地の人口増加や都市化がますます進み、身近な自然の存在意義が高まることが予想される中、本当にこれまでの多摩川の利用の仕方での良いのであろうか？一時の汚れた川に戻り、人やまちとの距離が離れていかないだろうか？

現在、地域資源としての市民の認識は高いものの、汚れた水のイメージが残る中で、市民の約3割がまったく多摩川を利用しておらず、多摩川への市民の関心は決して高いとはいえない状況にある。本研究では、そんな市民の関心を多摩川にむけさせ、多摩川と人やまちをもっと近づけたいとの思いから、さまざまな議論を交わした結果として、7つの提言を述べさせてもらった。しかし、現実には、試行錯誤の連続であり、この短期間の研究では、私たちの思いを伝えきれていない気がする。それだけ、多摩川と人やまちの関係は深く、多くの魅力が存在する空間なのである。

平成17年度には、多摩川の魅力を生かす総合的な取り組みを進めるため、多摩川施策担当が設置され、市民からの窓口も一本化されたことで、多摩川と川崎の人やまちの距離はさらに近づいてくるであろう。平成18年度には、多摩川プランが策定され、多摩川を活かしたまちづくりが進んでいくことに期待したいが、そのためにも市民と行政、行政間の連携を図っていくことが必要であり、市民と行政や行政間の縦割りなどなくして、多摩川にもっと近づき、多摩川流域でひとつにつながってもらいたい。私たちも、本研究を通して、いろいろな方々と多摩川を通してつながり、少しでも多摩川に近づくことができた実感している。

7つの提言が、多摩川に関する施策の一助となり、多摩川が子どもたちにとって身近な遊び場となることを願ってやまない。

最後になりましたが、本研究を進めるにあたって、たいへん多くの方々にお世話になりました。また、陰でいろいろと支えてくれました専門調査員である梶谷さん、事務局の菊地さん、広岡さんにも大変お世話になりました。また、忙しい中、快く送り出してくれた各職場の皆さんに、深く感謝申し上げます。



真岡市自然教育センターの前にて 2005.12.1

| 所属 | 名前 |
|-----------------|----------------|
| 港湾局港湾整備部事業計画課 | 山本 一滋 (リーダー) |
| 環境局緑政部多摩川施策推進担当 | 古泉 智子 (サブリーダー) |
| 水道局工務部水質課 | 今村 則子 |
| 港湾局港湾整備部設計課 | 小林 悟 |
| 健康福祉局地域福祉部保健年金課 | 乃万 真之 |

| | |
|---------------|-------|
| 総合企画局政策部専門調査員 | 梶谷 有華 |
|---------------|-------|

多摩川流域つなが

多摩川流域図 (国土交通省京浜河川事務所発行「水辺を歩こう 多摩川」より)

| | |
|--------|-----------------------------|
| 水源地 | 笠取山(山梨県塩山市 標高1,953m) |
| 全長 | 138km |
| 流域面積 | 1,240km ² |
| 流域区市町村 | 30[東京都26区市町村・神奈川県1市・山梨県3市村] |
| 流域内人口 | 約4,250,000人[1995(平成7)年度] |



撮影:川崎市環境局多摩川施策推進課

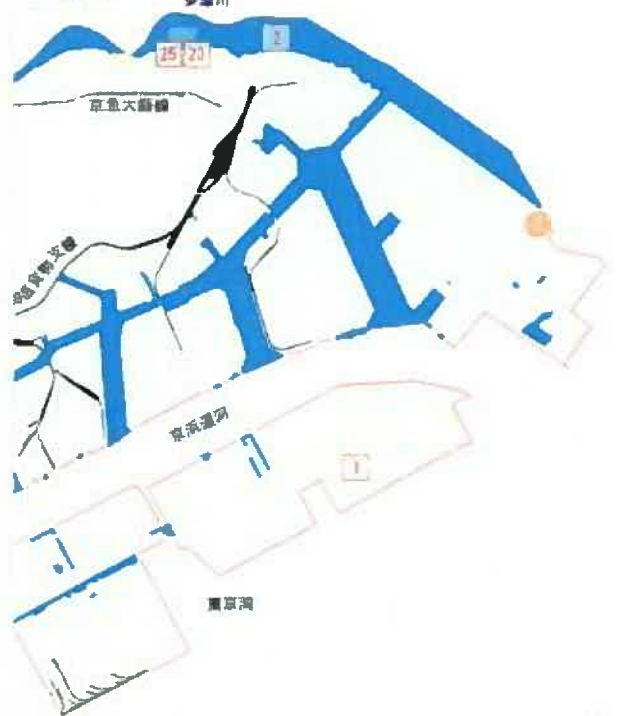
多摩川流域 関連団体

～川崎を拠点とした市民活動団体/NPOなど～

1～32

- 1 NPO法人 川崎の漁と歴史保存会
- 2 かわさき・酒の市民会館
- 3 たま・エコ・PJ
- 4 ニヶ瀬用水の再生を考える市民の会
- 5 ニヶ瀬用水・中原統の会
- 6 ニヶ瀬用水ウォッチング・フォーラム
- 7 高地区まちづくり協議会 水辺の風景部会
- 8 かわさき水辺の漁校
- 9 とどろき水辺の楽校
- 10 TOMMORI KIDS ADVENTURE CLUB
- 11 いなだ子どものふるさと会
- 12 宿河原様遺保存会
- 13 多摩川さくらの会
- 14 多摩川等々力土手のさくらを愛する会
- 15 NPO法人 かわさき自然調査団
- 16 多摩川と語る会
- 17 川崎河川通英協同組合
- 18 多摩川クラブ
- 19 飛鳥谷戸の自然を守る会
- 20 星が丘地域の会
- 21 川崎市市民健康の森交旅会
- 22 多摩川美化活動
- 23 多摩川遊クラブ
- 24 アイコネクションズ
- 25 多摩川河川敷自主管理運営委員会
- 26 多摩川クラブ
- 27 葛酒乃会
- 28 川崎のまら資源を考える会
- 29 平瀬川流域まちづくり協議会
- 30 NPO法人 多摩川エコミュージアム
- 31 麻生水辺の会 (鶴見川水系)
- 32 矢上川で遊ぶ会 (鶴見川水系)

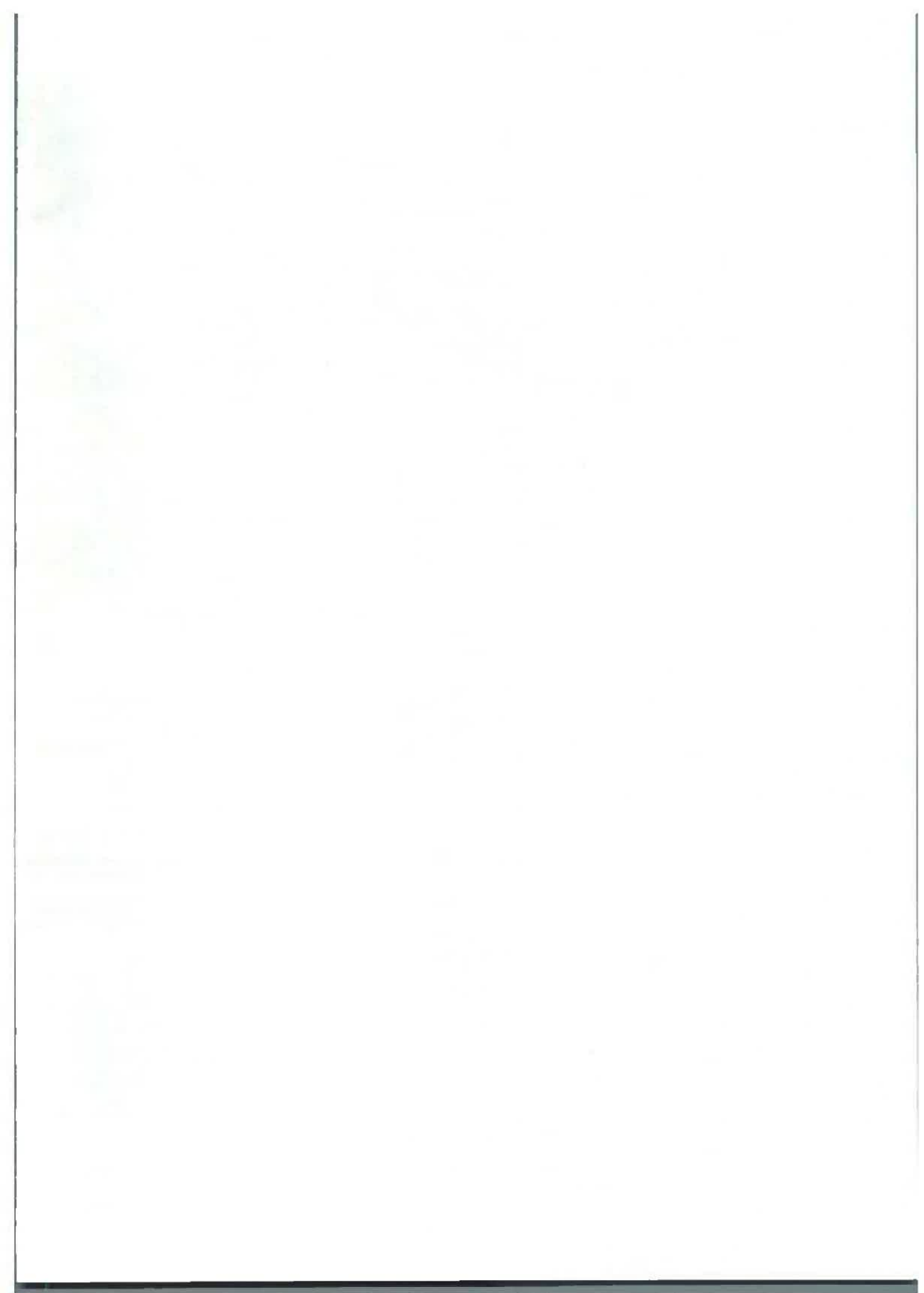
川崎区



5:114=1 91,000



～近くなる～多摩川に関する総合的施策推進に向けた7つの提言～ | 別紙
平成17(2005)年度 政策課題研究チーム作成



報告書名

**多摩川がもっと近くなる
～多摩川に関する総合的施策推進に向けた7つの提言～**

平成17年度 政策課題研究報告書

発行日 平成18年3月31日発行

発行 川崎市総合企画局政策部

〒210-8577

電話 (044) 200-2094

FAX (044) 200-3800



音楽のまちかわさき

川崎市総合企画局政策部

〒210 - 8577

川崎市川崎区宮本町1

電話 (044) 200-2094 定価 500円